

MVR-D2000/MPL-D2000

ユーザーズマニュアル

V3.22J

MVR-D2000/MPL-D2000

ユーザーズマニュアル

Version 3.22J

February 5, 2002

Copyright © 2000-2002 Canopus Co., Ltd.

All rights reserved.



**canopus®**

## ご使用の前に

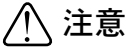
### ■絵表示について

本製品を安全に正しくお使いいただくために、以下の内容をよく理解してから本文をお読みください。



#### 警告

人が死亡または重傷を負う恐れのある内容を示しています。



#### 注意

けがをしたり財産に損害を受ける恐れのある内容を示しています。

### ■絵表示の意味



この記号はしてはいけないことを表しています。



この記号はしなければならないことを表しています。



この記号は気をつける必要があることを表しています。

### ■ご購入製品を使用される際の注意事項

ここでは、ご購入製品を使用されるときにご注意いただきたい事柄について説明しています。



#### 警告



##### ●健康上のご注意

ごくまれに、コンピュータのモニタに表示される強い光の刺激や点滅によって、一時的に目のかん・意識の喪失などが引き起こされる場合があります。こうした経験をこれまでになされたことがない方でも、それが起こる体質をもっていることも考えられます。こうした経験をお持ちの方や、経験をお持ちの方の血縁にあたる方は、本製品を使用される前に必ず医師と相談してください。



#### 警告



##### ●製品のご利用についての注意事項

医療機器や人命に関わるシステムでは、絶対にご利用にならないでください。製品の性質上、これらのシステムへの導入は適しません。



##### ●製品の取り付けおよび取り外しに関する注意事項

製品の取り付けおよび取り外しを行う場合必ずパソコン本体および周辺機器の電源を切り、さらに電源ケーブルをコンセントから抜いた状態で行ってください。

パソコン本体および周辺機器の電源を入れたまま製品を取り付けたり取り外したりした場合、製品やパソコン本体、周辺機器および周辺機器に接続されている機器の一部が破壊される恐れがあります。また、パソコン本体および周辺機器の電源ケーブルをコンセントから抜かずにパソコン本体や周辺機器の筐体(電源ユニットなど)、機器の金属部分に触れた場合には感電する恐れがあります。



##### ●静電気に関する注意事項

製品に静電気が流れると製品上の部品が破壊される恐れがあります。各コネクタや部品面には直接手を触れないでください。

静電気は衣服や人体からも発生します。製品に触れる前に、一旦接地された金属製のものに触れてください(体内の静電気を放電することになります)。



#### 注意



##### ●消費電流に関する注意事項

複数の拡張ボードをパソコンに取り付けるときは、ご購入製品を含めたすべての製品の消費電流の合計がパソコンの最大供給電流を超えないことを必ず確認してください。全ボードの消費電流の合計がパソコンの最大供給電流を超えたりするなどの動作条件を満たさない環境で使用し続けると、システムが正常に動作しない場合やシステムに負荷がかかり、パソコンが故障する原因となる恐れがあります。

消費電流のわからない製品については、その製品の取扱説明書をご覧いただくか、メーカーに直接お問い合わせいただいでお確かめください。



##### ●他社製品と併用されるときのご注意

他社製品と併用されるとご購入製品が正常に動作しないことがあり、そのためにシステムが本来の目的を達成することができないこともあります。あらかじめ、製品単体の環境で購入製品が正常に動作することをご確認ください。また、他社製品との併用によって購入製品が正常に動作しないのであれば、その他社製品と購入製品との併用はお止めください。



## ●その他の注意事項

製品は指定された位置に指示通り取り付けてください。指示通りに取り付けられていない場合、製品の金属部分とパソコンの金属部分が接触してショートするなどの要因で、製品やパソコン本体・周辺機器が破壊される恐れがあります。

製品を取り扱うときは手など皮膚を傷つけないよう十分にご注意ください。ハードウェアの仕様上、製品のパネル、コネクタ、エッジ、裏面は金属のピンが、突出していることがあります。製品を取り付けたり取り外したりするとき、製品全体を軽く包み込むようにお持ちください。

動作中の製品は熱により非常に熱くなります。長時間使用した製品に手を触れる際には、十分にご注意ください。



## ご注意

- (1) 本製品の一部または全部を無断で複製することを禁止します。
- (2) 本製品の内容や仕様は将来予告無しに変更することがあります。
- (3) 本製品は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの事がございましたら、当社までご連絡ください。
- (4) 運用した結果については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。
- (5) ご使用上の過失の有無を問わず、本製品の運用において発生した逸失利益を含む特別、付随的、または派生的損害に対するいかなる請求があったとしても、当社はその責任を負わないものとします。
- (6) 本製品付属のソフトウェア、ハードウェア、マニュアル、その他添付物を含めたすべての関連製品に関して、解析、リバースエンジニアリング、デコンパイル、ディスアセンブリを禁じます。
- (7) カノーブス、Canopusおよびそのロゴは、カノーブス株式会社の登録商標です。
- (8) MS、Windowsは米国マイクロソフト・コーポレーションの登録商標です。また、その他の商品名やそれに類するものは各社の商標または登録商標です。



## 表記について

- 本書はMVR-D2000/MPL-D2000のセットアップおよびアプリケーションの使用法について記載したものです。MVR-D2000/MPL-D2000 Development Kitの使用法については、付属の『Driver, Application & SDK CD』内のMVR-D2000/MPL-D2000 Development Kit Programmer's Manualをお読みください。
- 本書に記載されていない情報が記載される場合がありますので、ディスクに添付のテキストファイル・オンラインマニュアルも必ずお読みください。
- 本書での説明と実際の運用方法とで相違点がある場合には、実際の運用方法を優先するものとします。
- 本書はパソコンの基本的な操作を行うことができる方を対象に書れています。特に記載の無い操作については、一般的なパソコンの操作と同じように行ってください。
- 本書ではMicrosoft® Windows® Millennium Edition operating systemおよびMicrosoft® Windows® 2000 operating system、Microsoft® Windows® XPをWindows Me、Windows 2000、Windows XPと表記します。
- 説明の便宜上、実際の製品とイラスト及び画面写真が異なる場合があります。画面写真は開発中のものです。

ご使用方法や、この内容について不明な点、疑問点などがございましたら、カノーブス株式会社テクニカルサポートまでお問い合わせください。

### カノーブス株式会社

〒651-2241

神戸市西区室谷1-2-2

テクニカルサポート

TEL.078-992-6830

祝祭日および当社指定休日を除く月～金

10:00～12:00、13:00～17:00

# 目次

第1章 確認 .....	1
1-1.使用許諾契約書について .....	2
1-2.パッケージ内容の確認 .....	2
1-3.お問い合わせについて .....	3
1-4.注意事項 .....	4
■著作権に関して .....	4
■製品の運用結果に関して .....	4
1-5.動作環境の確認 .....	5
■パソコン本体 .....	5
■対応OS環境 .....	5
■グラフィックボード .....	5
■割込み(IRQ)について .....	6
第2章 セットアップ .....	7
2-1.各部の名称と機能 .....	8
2-2.ボードの装着 .....	9
■装着作業を行う前に .....	9
■ボードの装着 .....	10
2-3.周辺機器の接続 .....	12
■Sビデオ端子をもつ機器との接続 .....	12
■コンポジットビデオ端子をもつ機器との接続 .....	12
■オーディオ入力端子の接続 .....	13
■オーディオ出力端子の接続 .....	14
2-4.ドライバのインストール .....	15
■Windows 98ドライバのインストール .....	15
■Windows Millennium Editionドライバのインストール .....	17
■Windows 2000ドライバのインストール .....	19
■Windows XPドライバのインストール .....	21
2-5.ドライバのインストール .....	23
■アプリケーション、開発キットのインストール .....	23
■Acrobat Readerのインストール .....	26
2-6.アンインストール .....	28

2-7.MVR-D2000 プロパティ .....	29
■ 起動方法 .....	29
■ MVR-D2000 プロパティの設定 .....	29
<b>第3章 MPEG Station .....</b>	<b>33</b>
3-1.起動と各部の機能 .....	34
■ 起動方法 .....	34
■ 各部の機能 .....	34
3-2.キャプチャする .....	41
■ 基本操作 .....	41
■ 画像と音声のモニタ .....	42
■ キャプチャパラメータの設定 .....	45
3-3.再生する .....	51
■ 通常再生 .....	51
■ プログラム再生 .....	52
■ プレイリストの編集 .....	53
■ 再生オプションの設定 .....	56
■ ファイルサーチ .....	59
■ リピート再生 .....	60
3-4.詳細エンコードパラメータ .....	61
■ 概要 .....	61
■ 使用方法 .....	61
<b>第4章 DV-MPEGファイルコンバータ .....</b>	<b>63</b>
4-1.起動と各部の機能 .....	64
■ 起動方法 .....	64
■ 各部の機能 .....	64
4-2.ファイルの変換 .....	67
■ ファイル変換の手順 .....	67
<b>第5章 Premiere Plug-in .....</b>	<b>75</b>
5-1.概要 .....	76
■ Premiere Plug-in（プラグイン）について .....	76
5-2.使用方法 .....	77
■ Movie Compiler Module .....	77
■ Record Module .....	79

## 第6章 DVReX-RT(RT Engine)/DVReX-RT Professional/DVStorm-RTとの連携 ..... 81

### 6-1.RexEditでのMPEGファイルの変換 ..... 82

- MPEGファイルへ変換する ..... 82
- タイムライン全体を変換する ..... 82
- MPEG2ファイル出力のビットレートについて ..... 88
- タイムラインの一部を変換する ..... 89
- マークIN/マークOUTのショートカットキー ..... 90

## 第7章 オンラインマニュアル ..... 91

### 7-1.オンラインマニュアルの使い方 ..... 92

- オンラインマニュアルを起動する前に ..... 92
- オンラインマニュアルの起動方法 ..... 92
- ハードディスクへのインストール ..... 92
- Acrobat Readerの操作方法 ..... 92

## 付録 ..... 93

### A.トラブルシューティング ..... 94

### B.ハードウェア仕様 ..... 97

# 第1章

この章では、MVR-D2000/MPL-D2000のセットアップを行う前に確認していただきたい事項や、ご注意いただきたい事項について説明します。

## 確認

- ・ 使用許諾契約書について
- ・ パッケージ内容の確認
- ・ お問い合わせについて
- ・ 注意事項
- ・ 動作環境の確認

## 1-1. 使用許諾契約書について

当社製品をご購入いただきありがとうございます。本製品をお使いいただくにあたって、まずはじめに付属のSupport Service Manualに記載の「ソフトウェア使用許諾契約書」をお読みください。本製品に付属のソフトウェアをお使いいただくには、ソフトウェア使用許諾契約書の内容にご同意いただく必要があります。ソフトウェア使用許諾契約書の内容にご同意いただけない場合や、ご不明な点がございましたら、本書以外のパッケージを開封せずに当社カスタマーサポート（TEL. 078-992-5846）までご連絡ください。

なお、ソフトウェア使用許諾契約は、お客様がディスク入り封筒を開封された時点で契約内容にご同意いただけたものとさせていただきます。

## 1-2. パッケージ内容の確認

MVR-D2000/MPL-D2000には次のものが添付されています。全てのものがパッケージの中にあることを確認してください。製品の梱包には万全を期しておりますが、万一梱包内容に不備があった場合には、当社カスタマーサポート（TEL. 078-992-5846）までご連絡ください。

### ■MVR-D2000/MPL-D2000同梱物

☐MVR-D2000/MPL-D2000ボード

☐ピンジャック変換ケーブル（2本）

☐ディスク

本製品に付属のCD-ROMが封筒に入っています。開封する前に、Support Service Manualの中のソフトウェア使用許諾契約書の項目を必ずお読みください。付属しているディスクの内容については、別紙の「本製品に付属のメディア」をお読みください。

☐マニュアル

- ・MVR-D2000/MPL-D2000 ユーザーズマニュアル
- ・Support Service Manual



## □ユーザー登録カード・ユーザー控え

当社製品に関するサービス（サービス内容については付属のSupport Service Manualをお読みください）を受けていただくには、ユーザー登録が必要です。ユーザー登録カードに必要事項を記入のうえ、ユーザー控えを切り離して、当社まで速やかにお送りください。また、ユーザー控えは正規ユーザーであることを証明するものとなりますので、大切に保管してください。

## □保証書

保証書は、当社製品の動作確認・修理などを受けていただく場合に必要です。製品名、シリアルナンバーを記入し、大切に保管してください。紛失された場合はいかなる場合も再発行いたしませんのでご注意ください。

# 1-3. お問い合わせについて

本製品のお問い合わせは、お問い合わせ内容により以下の宛先までお問い合わせください。

製品のセットアップ・アプリケーションに関するお問い合わせ

カノープス株式会社テクニカルサポート

TEL：078-992-6830

（祝祭日および当社指定休日を除く月～金曜日 10:00～12:00、13:00～17:00）

開発キット・システムの導入に関するお問い合わせ

カノープス株式会社システム開発サポート

FAX：078-993-4776

e-mail：sdk@canopus.co.jp

※電話による受付は行っておりません。

## 1-4. 注意事項

本製品をご使用の際は、以下の点にご注意ください。

### ■著作権に関して

テレビ放送やビデオなど、他人の作成した映像をキャプチャした画像データは、動画、静止画に関わらず個人として楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また、個人として楽しむ目的であっても複製が制限されている場合があります。キャプチャした画像データのご利用に関する責任は当社では一切負いかねますのでご注意ください。

### ■製品の運用結果に関して

ご使用上の過失の有無を問わず、本製品の運用において発生した逸失利益を含む特別、付随的、または派生的損害に対するいかなる請求があったとしても、当社はその責任を負わないものとします。

本製品を使用して他人の著作物（例：CD・DVD・ビデオグラム等の媒体に収録されている、あるいはラジオ・テレビ放送又はインターネット送信によって取得する映像・音声）を録音・録画する場合の注意点は下記の通りとなります。

- 著作権上、個人的又は家庭内において著作物を使用する目的で複製をする場合を除き、その他の複製あるいは編集等が著作権を侵害することがあります。収録媒体等に示されている権利者、放送、送信、販売元または権利者団体等を介するなどの方法により、著作者・著作権者から許諾を得て複製、編集等を行う必要があります。
- 他人の著作物を許諾無く複製または編集して、これを媒体に固定して有償・無償を問わず譲渡すること、またはインターネット等を介して有償・無償を問わず送信すること（自己のホームページの一部に組み込む場合も同様です）は、著作権を侵害することになります。
- 本製品を使用して作成・複製・編集される著作物またはその複製物につきましては当社は一切責任を負いかねますので予めご了承ください。

## 1-5. 動作環境の確認

本製品をセットアップする前にパソコン本体がMVR-D2000/MPL-D2000を使用できる環境にあることを確認してください。

### ■ パソコン本体

下記の条件を満たすPC/AT互換機

※ ただし、下記の条件を満たす全てのパソコンでの動作を保証するものではありません。

- ・ Intel Pentium II 266MHz以上のCPUを搭載
  - ※ Intel社以外のプロセッサでの動作は保証いたしません。
- ・ 64MB以上のメモリを搭載(ファイル変換を行う場合は、96MB以上)
- ・ PCIバス(Ver.2.1以上)を搭載
- ・ CD-ROMドライブを搭載

### ■ 対応OS環境

- ・ Microsoft Windows XP Professional 日本語版
- ・ Microsoft Windows XP Home Edition 日本語版
- ・ Microsoft Windows 2000 Professional 日本語版
- ・ Microsoft Windows NT 4.0 日本語版 + サービスパック4以降
- ・ Microsoft Windows Millennium Edition 日本語版
- ・ Microsoft Windows 98 Second Edition 日本語版
- ・ Microsoft Windows 98 日本語版

### ■ グラフィックボード

- ・ 表示モード 640×480 16bit Color 以上
  - ※ ×1サイズでオーバーレイ表示を行う場合は、800×600以上の解像度が必要です。
- ・ Direct DrawおよびDirect Draw Overlayに対応したグラフィックボード、ドライバが必要です。当社製グラフィックボードでは以下の機種が対応製品になります。  
 SPECTRA X21/SPECTRA X20/SPECTRA 8800/SPECTRA 8400/SPECTRA F11  
 SPECTRA F11 PE32/SPECTRA F11 PE32 C-Tune/SPECTRA Light T32 PCI  
 SPECTRA 7400 DDR/SPECTRA 7400/SPECTRA 5400 Premium Edition  
 SPECTRA 5400R2/SPECTRA 5400/SPECTRA 3200R2/SPECTRA 3200R2 PCI/  
 SPECTRA 3200/SPECTRA 3200PCI/SPECTRA 2500  
 ZXR128A GTS・ZXR128P GTS  
 PWR128A GTV・PWR128A GTS・PWR128P GTV・PWR128P GTS  
 PWR128P/4VC・PWR128P  
 Power Window GX/4VC・Power Window DX/4MC・Power Window DX  
 ※ 当社製RexfxおよびDVXPLODEもオーバーレイ表示可能です。

## ■ 割込み（IRQ）について

MVR-D2000/MPL-D2000は、割込みを共有した状態での動作が可能ですが、共有する他のボードも割込みの共有をサポートしている必要があります。共有する他のボードが割込みの共有をサポートしていない場合は、MVR-D2000/MPL-D2000は正常動作しません。

※ 割込みを共有した状態での動作はパフォーマンスに影響がでる場合がありますので、できるだけ共有しない状態での使用をお勧めします。

## 第2章

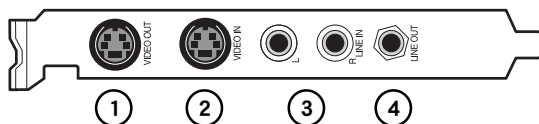
この章では、MVR-D2000/MPL-D2000パソコン本体への装着とソフトウェアのインストールについて説明します。

### セットアップ

- ・各部の名称と機能
- ・ボードの装着
- ・周辺機器の接続
- ・ドライバのインストール
- ・ソフトウェアのインストール
- ・アンインストール
- ・MVR-D2000プロパティ

## 2-1. 各部の名称と機能

MVR-D2000/MPL-D2000には次のような接続コネクタがあります。



### ① ビデオ出力端子

ファイル再生時の画像やMVR-D2000/MPL-D2000のビデオ入力端子に入力されるビデオ画像を出力します。付属の変換ケーブルを使用してコンポジットビデオ機器と接続することもできます。

### ② ビデオ入力端子

キャプチャするビデオ画像を入力する端子です。付属の変換ケーブルを使用してコンポジットビデオ機器と接続することもできます。

※ MPL-D2000にはキャプチャ機能はありません。

### ③ オーディオ入力端子

キャプチャする音声を入力する端子です。

※ MPL-D2000にはキャプチャ機能はありません。

### ④ オーディオ出力端子

ファイル再生時の音声やMVR-D2000/MPL-D2000のオーディオ入力端子に入力される音声を出力します。

※ この端子には、ヘッドフォンを絶対に接続しないでください。接続した場合は機器を破損したり耳を傷める可能性があります。

## 2-2. ボードの装着

### ■ 装着作業を行う前に

装着作業を行う前に必ず以下の事についてご確認ください。

- ・ ボードの装着作業を行うためのほこりの無い乾いたスペースを準備してください。また、パソコン本体のカバーの取り外しやボードをねじ止めするためのドライバーと取り外したねじをいれておく空き箱を用意してください。
- ・ 必ずパソコン本体および周辺機器の電源を切り、コンセントを抜いてください。電源をいれたまま本製品を装着したり取り外しを行うと、本製品やパソコン本体、周辺機器を破損する恐れがあります。
- ・ ボードに静電気が流れるとボード上の部品が破損する恐れがあります。コネクタや部品面、端子類には直接手を触れないでください。また、静電気は衣服や人体からも発生するため、本製品を装着、取り外しを行う前には金属製のものに触れて体内の静電気を放電してください。
- ・ 本製品の最大消費電流は以下の通りです。複数の拡張ボードを使用している場合は、すべてのボードの消費電流の合計がパソコン本体の最大電源供給量を超えていないか、各拡張ボードのマニュアルなどをご覧の上、必ず確認してください。

#### ● MVR-D2000最大消費電流

+ 5V : 1.5A

+ 12V : 160mA

- 12V : 100mA

#### ● MPL-D2000最大消費電流

+ 5V : 1.1A

+ 12V : 160mA

- 12V : 100mA

## ■ボードの装着

MVR-D2000/MPL-D2000をパソコン本体のPCIスロットに装着します。以下の手順に従って作業を進めてください。

**1** Windowsを終了し、電源を切ります。

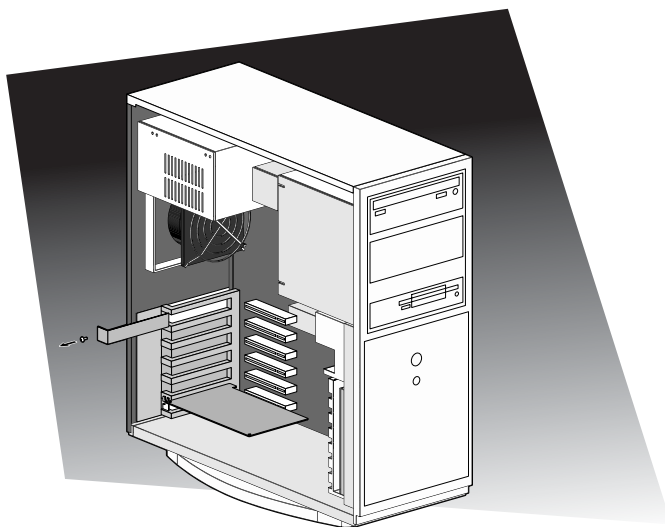
**2** パソコン本体および周辺機器の電源ケーブルを外します。

**3** パソコン本体のカバーを外します。

※ 外し方はパソコン本体のマニュアルをお読みください。また、取り外したねじはなくさないように空き箱に入れておいてください。

**4** PCIスロットのスロットカバーを外します。

※ 取り外したねじはなくさないように空き箱に入れておいてください。また、取り外したスロットカバーは使用しませんので保管してください。

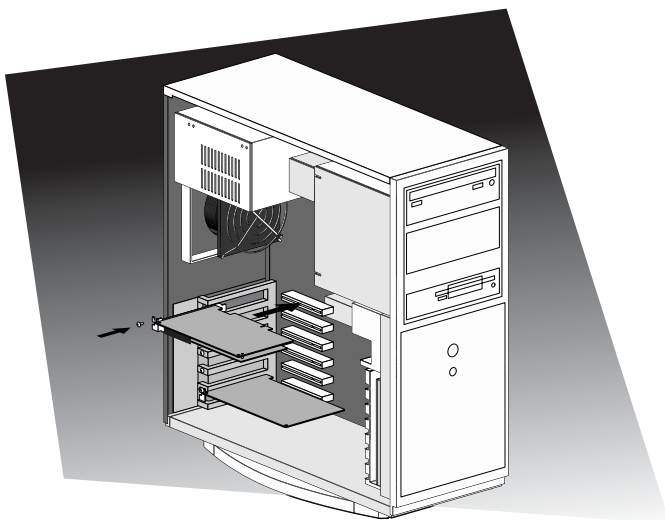


**5** MVR-D2000/MPL-D2000をPCIスロットに装着します。

※ ボードは通常スムーズに装着できるようになっていますので無理に押し込まないでください。スムーズに装着できない場合は、MVR-D2000/MPL-D2000とマザーボード上の部品が接触しているなどの原因が考えられます。ボードをいったん取り外して装着できない原因を確認するか、他のPCIスロットに装着してみてください。



- 6** 4. で取り外したねじを使用して、MVR-D2000/MPL-D2000のスロットカバーをパソコン本体に固定します。
- 7** パソコン本体のカバーを閉じ、パソコン本体および周辺機器の電源ケーブルを接続します。



## 2-3. 周辺機器の接続

MVR-D2000/MPL-D2000と周辺機器の接続は以下のとおり行ってください。

### ■Sビデオ端子をもつ機器との接続

下のイラストを参考に、市販のSビデオケーブルを使用してMVR-D2000/MPL-D2000のビデオ端子とビデオ機器のSビデオ端子を接続します。

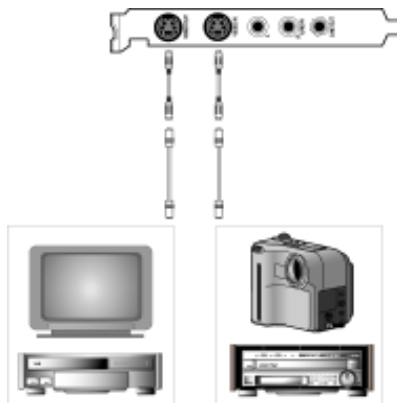
※ MPL-D2000ではキャプチャは行えません。スルーアウトのみ可能です。



### ■コンポジットビデオ端子をもつ機器との接続

下のイラストを参考に、付属のピンジャック変換ケーブルと市販のコンポジットビデオケーブルを使用してMVR-D2000/MPL-D2000のビデオ端子とビデオ機器のコンポジットビデオ端子を接続します。

※ MPL-D2000ではキャプチャは行えません。スルーアウトのみ可能です。



## ■オーディオ入力端子の接続

下のイラストを参考にMVR-D2000/MPL-D2000のオーディオ入力端子とビデオ機器のオーディオ出力端子を接続します。

※ MPL-D2000ではキャプチャは行えません。スルーアウトのみ可能です。

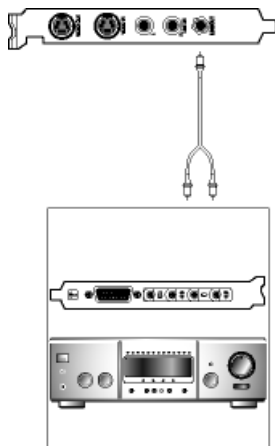


接続する機器に応じて以下のケーブルをご用意ください。

- ・ 接続する機器のオーディオ出力端子がRCAピンジャックの場合  
両側がRCAピンジャックのオーディオケーブルを使用してください。
- ・ 接続する機器のオーディオ出力端子がステレオミニジャックの場合  
片側がRCAピンジャック、もう片側がステレオミニジャックのオーディオケーブルで抵抗の入っていないものを使用してください。

## ■オーディオ出力端子の接続

下のイラストを参考にMVR-D2000/MPL-D2000のオーディオ出力端子とサウンドカードのライン入力端子やビデオ機器のオーディオ入力端子を接続します。



接続する機器に応じて以下のケーブルをご用意ください。

- ・ 接続する機器のオーディオ入力端子がRCAピンジャックの場合  
片側がRCAピンジャック、もう片側がステレオミニジャックのオーディオケーブルで抵抗の入っていないものを使用してください。
- ・ 接続する機器のオーディオ出力端子がステレオミニジャックの場合  
両側がステレオミニジャックのオーディオケーブルで抵抗の入っていないものを使用してください。

## 2-4. ドライバのインストール

Windows 98/Windows Millennium Edition/Windows 2000/Windows XP環境でご使用の場合は、本節をお読みいただきドライバのインストールを行ってください。Windows NT 4.0環境でご使用の場合は、本書p. 23『2-5. ソフトウェアのインストール』へ進んでください。

### ■Windows 98ドライバのインストール

MVR-D2000/MPL-D2000をパソコンに装着してWindows 98を起動すると、MVR-D2000/MPL-D2000がマルチメディアデバイスとして自動認識され、プラグアンドプレイによるハードウェアウィザードが開始されます。ディスプレイ画面に表示されるメッセージに従ってドライバのインストールを行ってください。

- 1 次に示すウィンドウが表示されています。『Driver, Application & SDK CD』をCD-ROMドライブに入れ[次へ]をクリックします。

**Note** ここではCD-ROMドライブをD:ドライブと想定しています。



- 2 [使用中のデバイスに最適なドライバを選択する(推奨)]にチェックをつけ、[次へ]をクリックします。



- 3** [検索場所の指定]にチェックをつけ（その他のチェックは外してください）、検索場所として「D:\MVR-D2000\Win9x」と入力して[次へ]をクリックします。



- 4** [次へ]をクリックします。

⇒ ドライバファイルがハードディスクにインストールされます。

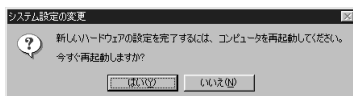


- 5** [完了]をクリックします。



- 6** 設定を有効にするためにコンピュータの再起動を促すダイアログが表示されますので、[はい]をクリックします。

⇒ コンピュータが再起動します。



## ■ Windows Millennium Editionドライバのインストール

MVR-D2000/MPL-D2000をパソコンに装着してWindows Millennium Editionを起動すると、MVR-D2000/MPL-D2000がマルチメディアデバイスとして自動認識され、プラグアンドプレイによるハードウェアウィザードが開始されます。ディスプレイ画面に表示されるメッセージに従ってドライバのインストールを行ってください。

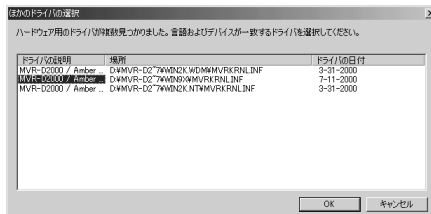
- 1 『Driver, Application & SDK CD』をCD-ROMドライブに入れます。[適切なドライバを自動的に検索する(推奨)]にチェックをつけ、[次へ]をクリックします。

**Note** ここではCD-ROMドライブをD:ドライブと想定しています。CD-ROMの自動再生を設定している場合、CD-ROMを挿入するとSETUP.EXEが自動起動しますのでMVR-D2000のセットアッププログラム側はキャンセルしてください(p.23の手順2.のウィンドウが表示されますので[キャンセル]をクリックします)。



- 2 [D:\MVR-D2000\MWIN9X\MVRKRNL.INF]を選択し、[OK]をクリックします。

**Note** お使いの環境によりファイル名などの表示が異なることがあります。たとえば下図のように[D:\MVR-D2~7\MWIN9X\MVRKRNL.INF]と表示される場合があります。



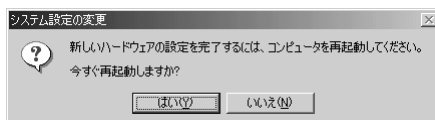
MVRKRNL.INF というファイルは、他に ¥MVR-D2000¥WIN2K\_NT、¥MVR-D2000 ¥WIN2K\_WDM にも存在します。これらを間違えて選択しないようにご注意ください。

### 3 [完了] をクリックします。



### 4 設定を有効にするためにコンピュータの再起動を促すダイアログが表示されますので、[はい]をクリックします。

⇒ コンピュータが再起動します。

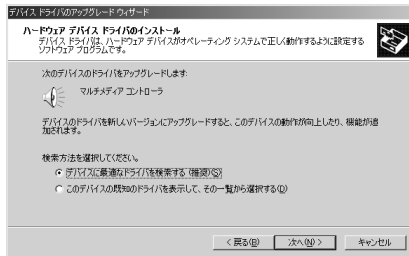




## ■ Windows 2000 ドライバのインストール

Windows 2000でドライバのインストールを行うには、システム設定の変更を行える資格を持つID (Administratorなど) でログオンする必要があります。あらかじめシステム設定の変更を行える資格を持つIDでログオンしてからインストール作業を行ってください。また、Windows 2000で使用する場合は、この作業を行った後にアプリケーションのインストールを行ってください。

- 1 Windows 2000に新たにMVR-D2000/MPL-D2000を装着し、起動すると[新しいハードウェアが見つかりました]ダイアログに続いて[新しいハードウェアの検索ウィザードの開始]ダイアログが表示されますので[次へ]をクリックします。
- 2 [デバイスに最適なドライバを検索する]を選択し、[次へ]をクリックします。



- 3 [ドライバファイルの特定]画面が表示されますので[検索場所のオプション]から[場所を指定]にのみチェックし、[次へ]をクリックします。
- 4 『Driver, Application & SDK CD』をCD-ROMドライブにセットし、[製造元のファイルのコピー元]に [D:\MVR-D2000\Win2k.WDM] フォルダを指定して[OK]をクリックします。[参照]をクリックして指定することもできます。

**Note** ここではCD-ROMドライブをD:ドライブと想定しています。

- 5** [ドライバ ファイルの検索]ダイアログでモデル一覧に[MVR-D2000 Kernel Mode Driver for Windows 2000]が表示されていることを確認し、[次へ]をクリックします。



- 6** [デジタル署名が見つかりませんでした]ダイアログが表示されますが、[はい]をクリックします。



**Note** [ディスクの挿入]ダイアログが表示された場合は、[OK]をクリックし、再度 手順4.で指定したフォルダを設定してください。

⇒ ファイルのコピーが始まり、[新しいハードウェアの検索ウィザードの完了]ダイアログが表示されるとドライバのインストールは完了です。

- 7** [完了]をクリックすると[システム設定の変更]ダイアログが表示されますので、[はい]を選択し、画面の指示にしたがって Windows 2000 の再起動を行ってください。

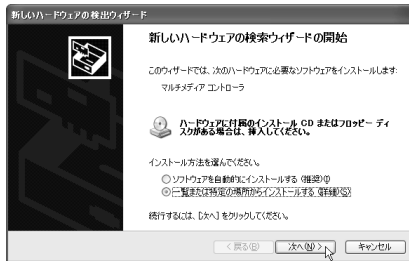


MVR-D2000/MPL-D2000 を既にお使いの環境に Windows 2000 をインストールされる場合は、『Driver, Application & SDK CD』に含まれる WdmReadme.TXT 内の 2. WDM ドライバのインストール - 2.2 MVR-D2000/MPL-D2000 を装着したまま Windows 2000 をインストールした場合を参照し、インストール作業を行ってください。

## ■ Windows XP ドライバのインストール

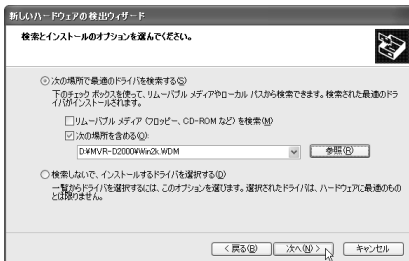
Windows XPでドライバのインストールを行うには、システム設定の変更を行える資格を持つID (Administratorなど) でログオンする必要があります。あらかじめシステム設定の変更を行える資格を持つIDでログオンしてからインストール作業を行ってください。また、Windows XPで使用する場合は、この作業を行った後にアプリケーションのインストールを行ってください。

- 1 Windows XPに新たにMVR-D2000/MPL-D2000を装着し、起動すると[新しいハードウェアの検索ウィザードの開始]ダイアログが表示されます。[一覧または特定の場所からインストール(詳細)]を選択し、[次へ]をクリックします。



- 2 [次の場所を含める]にチェックを付け、テキストボックスに[D:\MVR-D2000\Win2k.WDM]と入力し[次へ]をクリックします。[参照]をクリックして指定することもできます。

**Note** ここではCD-ROMドライブをD:ドライブと想定しています。



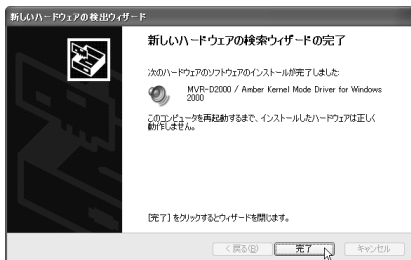
### 3 [続行]をクリックします。



**Note** ドライバのコピー中に、ドライバの場所を確認するダイアログが表示される場合があります。この場合、再度 手順2.で指定したフォルダを指定してください。

⇒ ファイルのコピーが始まり、[新しいハードウェアの検索ウィザードの完了]ダイアログが表示されるとドライバのインストールは完了です。

### 4 [完了]をクリックします。



### 5 [はい]をクリックし、Windows XP の再起動を行ってください。



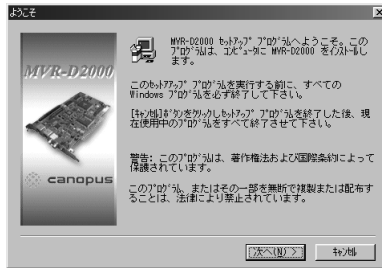
## 2-5. ソフトウェアのインストール

### ■アプリケーション、開発キットのインストール

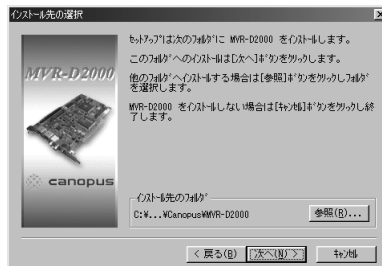
Windows NT/Windows 2000/Windows XPでインストールを行うには、システム設定の変更を行える資格を持つID (Administratorなど) でログオンする必要があります。あらかじめシステム設定の変更を行える資格を持つIDでログオンしてからインストール作業を行ってください。また、Windows NTで使用する場合は、この作業を行うことでドライバも同時にインストールされます。

- 1 『Driver, Application & SDK CD』をCD-ROMドライブにセットし、マイコンピュータからCD-ROMドライブを開き、[MVR-D2000]フォルダ内にある[Setup. exe]をダブルクリックします。

- 2 [次へ]をクリックします。



- 3 インストール先のフォルダを選択し、[次へ] をクリックします。



**Note** インストール先のフォルダを変更する場合には、[参照]をクリックし、インストールするフォルダを選択するか、フォルダ名をキー入力します。

## 4 インストールするコンポーネントを選択して「次へ」をクリックします。



### • Driver and Application

MVR-D2000/MPL-D2000のドライバとキャプチャ、再生を行うアプリケーション(MPEGStation)をインストールします。

※ MPL-D2000には、キャプチャ機能はありません。

### • DV to MPEG Converter

Canopus DV形式のAVIファイルをMPEGファイルにコンバートするアプリケーションをインストールします。Premiere Plug-inおよびRexEdit(RT専用版Ver.2.9以上)でMPEG形式ファイルへの変換機能を付加させる場合、このモジュールは必ずインストールしてください。

※ このコンポーネントをインストールした場合、ドライバの確保するメモリが約3.7MB増加します。

※ 本機能はMPL-D2000ではご使用いただけません。

### • Development Kit

MVR-D2000/MPL-D2000をコントロールするアプリケーションの開発キットをインストールします。

### • Premiere Plug-in

Premiere 5.xからMVR-D2000を利用したキャプチャや編集したデータのMPEGファイルへのエンコードを行うプラグインをインストールします。Premiere Plug-inを使用する場合、上記DV to MPEG Converterのモジュールのインストールが必要です。

※ 本機能はMPL-D2000ではご使用いただけません。

**Note** 開発キットのみをインストールする場合は、あらかじめドライバ、アプリケーションがインストールされている必要があります。

## 5 [次へ]をクリックします。

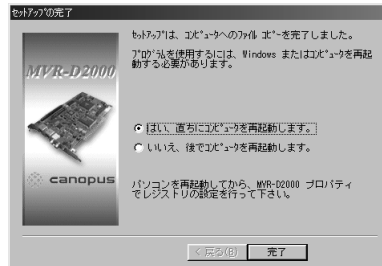
⇒ ファイルコピーが開始されます。



**Note** アプリケーションのショートカットを登録するフォルダ名を変更したい場合は、メニューから選択するか、フォルダ名をキー入力します。

## 6 [完了]をクリックします。

⇒ コンピュータが再起動します。



**Note** [いいえ、後でコンピュータを再起動します]を選択した場合は、必ず手動（[スタート]–[シャットダウン]–[コンピュータを再起動する]）でコンピュータを再起動してください。なお、開発キットのみをインストールした場合はこのダイアログは表示されず、別のインストール完了のダイアログが表示されますので、そのダイアログ内の[完了]をクリックしてください。

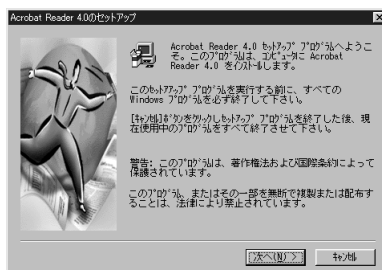
以上でMVR-D2000/MPL-D2000を使用する準備が完了しました。開発キットを使用する場合は、本ユーザーズマニュアルをご参照の上、引き続き「Acrobat Readerのインストール」へ進んでください。

## ■ Acrobat Readerのインストール

MVR-D2000/MPL-D2000 Development Kit Programmer's Manualを読むためには、Acrobat Readerが必要です。Acrobat Readerがインストールされていない場合は、アプリケーションのインストールを行う前にAcrobat Readerのインストールを行ってください。

『Driver, Application & SDK CD』をCD-ROMドライブにセットします。

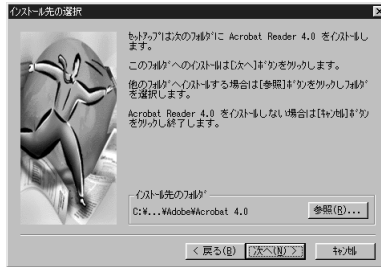
- 1 マイコンピュータからCD-ROMドライブを開き、[Manual]フォルダー[Acrobat]フォルダを開き、フォルダ内にある[ar405jpn]をダブルクリックします。
- 2 インストールを行うかどうか聞いてきますので、[はい]をクリックします。  
⇒ ファイルの抽出が始まり、その後「InstallShield Wizard」準備中の画面が表示されます。
- 3 ダイアログの指示に従って現在使用中のすべてのプログラムを終了させた後、[次へ>]をクリックします。  
⇒ 製品ライセンス契約が表示されますので契約内容をよくお読みの上、[はい]をクリックします。





## 4 インストール先のフォルダを選択し、[次へ>]をクリックします。

⇒ ファイルのコピーが開始されます。



**Note** インストールするフォルダを変更する場合には、[参照]をクリックし、インストールするフォルダを選択するか、フォルダ名をキー入力します。

## 5 セットアップ終了のメッセージが表示されますので[OK]をクリックします。



以上でAcrobat Readerのインストールは完了です。

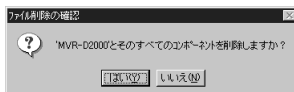
## 2-6. アンインストール

MVR-D2000/MPL-D2000を使用しなくなった場合、MVR-D2000/MPL-D2000のドライバ、アプリケーション、開発キット（インストールしている場合のみ）をアンインストールすることができます。ここではWindows 98 SE環境を例に説明します。

- 1 [スタート]－[設定]－[コントロールパネル]より、[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックします。
- 2 削除できるソフトウェアの一覧が表示されますので、[MVR-D2000]を選択し[追加と削除]をクリックします。



- 3 ファイル削除確認のメッセージが表示されますので[はい]をクリックします。  
⇒ MVR-D2000/MPL-D2000のドライバ、アプリケーション、開発キット(インストールしている場合のみ)が削除され、削除完了のメッセージが表示されます。



- 4 [OK]をクリックします。

以上でドライバ、アプリケーション、開発キットのアンインストールは完了です。

## 2-7. MVR-D2000 プロパティ

### ■ 起動方法

[スタート]ボタンをクリックして、[プログラム]→[MVR-D2000]と進み、[MVR-D2000 プロパティ]を選択するとMVR-D2000 プロパティが起動します。使用するOS およびドライバによって表示される画面が異なります。

＜Windows NT 4.0/Windows 2000環境でWindows NT 4.0ドライバをお使いの場合＞



＜Windows 2000環境でWindows 2000 WDMドライバをお使いの場合＞



### ■ MVR-D2000 プロパティの設定

**1** MVR-D2000 プロパティウィンドウにある[デバイス]または[電源の管理]をクリックします。

⇒ 2[デバイス]タブの[プロパティ]をクリックするとデバイスプロパティウィンドウが表示されます。

⇒ 3.電源の管理プロパティウィンドウが表示されます。

**Note** MVR-D2000 Ver3.00 から MVR-D2000 Series ハードウェアを複数枚装着し、開発キットを用いて動作させることが可能となります。複数枚装着時には、MVR-D2000プロパティにも複数表示されます。

## 2 MVR-D2000/MPL-D2000で使用するデバイス機能の設定を行ってください。



●MVR-D2000



●MPL-D2000

- ・キャプチャ/プレイバック/モニター

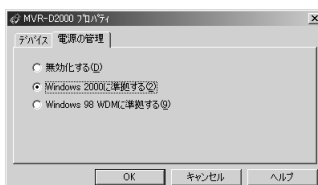
MVR-D2000 Seriesではこれらの設定変更を行うことはできません。

- ・AVIファイルをMPEGに変換する

製品同梱のアプリケーション「DV-MPEG ファイルコンバータ」を使用してCanopus DV形式のAVIファイルをMPEGファイルに変換する場合にチェックをつけます。チェックがついている場合、ドライバが確保するメモリが3.7MB増加します。「DV-MPEG ファイルコンバータ」を使用しない場合、チェックをはずすことでドライバが確保するメモリを減らすことができます。チェックをはずした状態では「DV-MPEG ファイルコンバータ」は使用できません。

※ 本機能はMPL-D2000ではご使用いただけません。

## 3 MVR-D2000で使用する電源管理機能の設定を行ってください。(WDMドライバ使用時のみ)



- ・無効化する

電源管理を実行しません。

- ・Windows 2000に準拠する

Windows 2000 Device Driver Kit (build 2195)に準拠したpower policy ownerとして動作します。

- ・Windows 98 WDMに準拠する

Windows 98 Device Driver Kit(ないしは、Windows 2000 Release Candidate 2 Device Driver Kit)に準拠したpower policy ownerとして動作します。

**Note** WDMドライバのインストール直後には、[Windows 2000に準拠する]が設定されています。Windows 2000のシャットダウン/再起動/スタンバイ～復帰が正常に動作しない場合は、電源の管理方法を[Windows 98 WDMに準拠する]に変更して試してみてください。それでもうまく行かない場合は、電源の管理方法を[無効化する]に変更して試してみてください。

- 4** 設定後、[OK]をクリックするとMVR-D2000 プロパティウィンドウに戻ります。  
⇒ MVR-D2000 プロパティウィンドウの[OK]をクリックするとウィンドウが閉じます。

以上でMVR-D2000 プロパティの設定は終了です。



## 第3章

この章では、MPEG Stationの使用  
方法について説明します。MPEG  
Stationは、動画キャプチャ(MPL-  
D2000)はキャプチャ不可)、再生  
アプリケーションです。

### MPEG Station

- ・ 起動と各部の名称
- ・ キャプチャする
- ・ 再生する
- ・ 詳細エンコードパラメータ

## 3-1. 起動と各部の名称

### ■ 起動方法

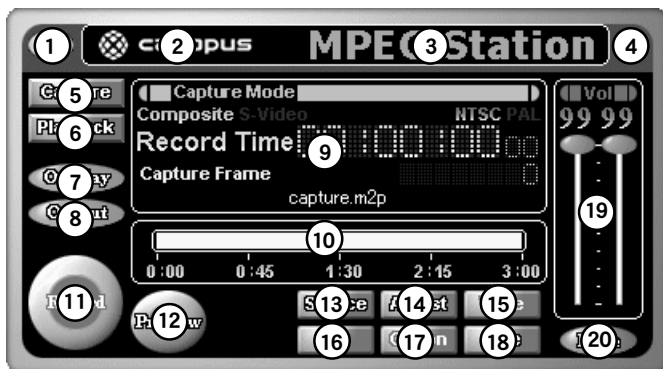
[スタート]ボタンをクリックして、[プログラム]→[MVR-D2000]と進み、[MPEG Station]を選択するとMPEG Stationが起動します。

### ■ 各部の名称と機能

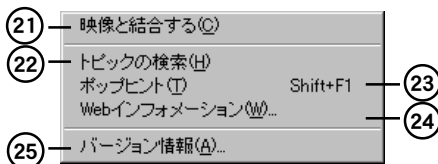
MPEG Stationを起動すると以下の画面が表示されます（操作モードにより表示される画面が異なります）。

#### ◇ キャプチャモード

Note MPL-D2000には、キャプチャ機能はありません。



MPEG Station画面上で右クリックすると以下の画面が表示されます。





- ① 終了ボタン  
MPEG Stationを終了します。
- ② ホームページアクセスエリア  
インターネットが使用できる環境でここをクリックするとカノーブス株式会社のホームページへアクセスします。
- ③ バージョン情報表示エリア  
ここをクリックするとMPEG Stationのバージョン情報を表示します。
- ④ 最小化ボタン  
MPEG Stationを最小表示します。Windowsタスクトレイの「MPEG Station」を選択すると元の表示に戻ります。
- ⑤ キャプチャモード切替ボタン  
MPEG Stationをキャプチャモードに切り替えます。
- ⑥ 再生モード切替ボタン  
MPEG Stationを再生モードに切り替えます。
- ⑦ オーバーレイ表示ボタン  
プレビューボタンが押されている時に入力画像をオーバーレイ表示します。もう一度クリックするとオーバーレイ表示を終了します。
- ⑧ ビデオ出力ボタン  
プレビューボタンが押されている時に入力画像をビデオ出力端子にスルー出力します。もう一度クリックするとビデオ出力を終了します。
- ⑨ インフォメーションディスプレイ  
入力信号の種類、キャプチャ時間、ファイル名、フレーム数などの情報を表示します。  
**Note** ロングファイルネームを使用時などはファイル名表示が途中までしか行われません。マウスカーソルをファイル名の上に持ってゆき、チップヘルプから確認してください。
- ⑩ ステータスバー  
キャプチャ時間を棒グラフで表示します。
- ⑪ キャプチャボタン  
キャプチャを開始します。キャプチャ中にクリックするとキャプチャを終了します。  
**Note** MPL-D2000では、使用できません。

⑫ プレビューボタン

入力画像をプレビュー表示します。プレビュー表示の方式は、オーバーレイ表示ボタン、ビデオ出力ボタンの操作に依存します。もう一度クリックするとプレビュー表示を終了します。

⑬ ソース切替ボタン

ビデオ入力端子（Sビデオもしくはコンポジットビデオ）を切り替えます。入力ソースのビデオ信号形式がNTSCの場合は、ビデオ入力端子（Sビデオもしくはコンポジットビデオ）を自動判別してソース切替を行います（入力ソースのビデオ信号形式がPALの場合は自動切替は行われません）。

⑭ 画質調整ボタン

選択すると以下のメニューが表示されます。

- ・ビデオ入力調整

キャプチャ時の画質を調整します。

- ・オーバーレイ出力調整

オーバーレイ表示の画質を調整します。

⑮ キャプチャ時間設定ボタン

キャプチャ時間の制限の有無と、制限をつける場合のキャプチャ時間を設定します。

**Note** MPL-D2000では、使用できません。

⑯ キャプチャファイル設定ボタン

キャプチャファイルのファイル名と保存先を設定します。

**Note** MPL-D2000では、使用できません。

⑰ オプション設定ボタン

キャプチャファイルのフォーマットなどを設定します。

**Note** MPL-D2000では、使用できません。

⑱ オーバーレイサイズ設定ボタン

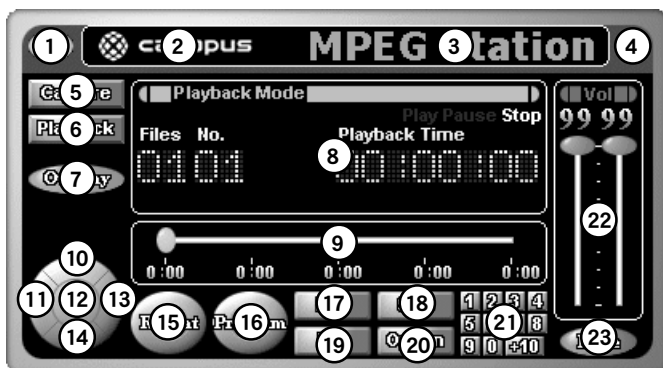
入力画像をオーバーレイ表示する際の表示サイズを設定します。

⑲ モニタレベル調整フェーダー

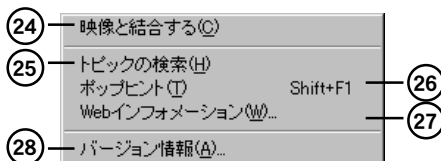
ビデオ機器からの入力音声をモニタする際の音量レベルを調整します。左右独立で調整することもできます。マイクロソフト社製インテリマウスなどのホイール機能を搭載したマウスを使用している場合は、ホイールを使用して音量レベルを調整することができます。キャプチャ時の録音レベルの調整はできません。

- ⑳ ミュートボタン  
音声のモニタレベルをゼロにします。もう一度クリックすると元に戻ります。キャプチャ時にこのボタンを使用して無音のファイルを作成することはできません。
- ㉑ 結合/分離  
オーバーレイ表示画面とMPEG Stationの操作部を一体表示、分離表示するかを選択します。
- ㉒ 目次検索  
MPEG Stationのオンラインヘルプの目次を表示します。
- ㉓ ポップヒント表示  
このメニューを選択してからMPEG Station上の操作ボタンをクリックすると、そのボタンの機能の説明が表示されます。
- ㉔ ホームページアクセス  
インターネットが使用できる環境でこのメニューを選択するとカノープス株式会社のホームページにアクセスします。
- ㉕ バージョン情報表示  
MPEG Stationのバージョンを表示します。

# ◇再生モード



MPEG Station画面上で右クリックすると以下の画面が表示されます。



## ① 終了ボタン

MPEG Stationを終了します。

## ② ホームページアクセスエリア

インターネットが使用できる環境でここをクリックするとカノーブス株式会社のホームページへアクセスします。

## ③ バージョン情報表示エリア

ここをクリックするとMPEG Stationのバージョン情報を表示します。

## ④ 最小化ボタン

MPEG Stationを最小表示します。Windowsタスクトレイの「MPEG Station」を選択すると元の表示に戻ります。

## ⑤ キャプチャモード切替ボタン

MPEG Stationをキャプチャモードに切り替えます。

## ⑥ 再生モード切替ボタン

MPEG Stationを再生モードに切り替えます。

⑦ オーバーレイ表示ボタン

再生画像をオーバーレイ表示します。もう一度クリックするとオーバーレイ表示を終了します。

⑧ インフォメーションディスプレイ

動作状態、ファイル番号、再生時間、現在選択されているファイル名などの情報を表示します。

**Note** ロングファイルネームを使用時などはファイル名表示が途中でしか行われません。マウスカーソルをファイル名の上に持ってゆき、チップヘルプから確認してください。

⑨ スライダー

再生位置を変更します。

⑩ 一時停止ボタン

ファイルの再生を一時停止します。

⑪ サーチボタン（前ファイル）

プログラム再生モード時に前のファイルをサーチします。

⑫ 再生ボタン

ファイルの再生を開始します。

⑬ サーチボタン（次ファイル）

プログラム再生モード時に次のファイルを頭出しします。

⑭ 停止ボタン

ファイルの再生を停止します。再生位置はファイルの先頭に戻ります。

⑮ リピートボタン

現在選択されているファイルをリピート再生します。プログラム再生時にはプレイリストに登録されているすべてのファイルをリピート再生します。

⑯ プログラム再生ボタン

プレイリストの内容に従って複数のファイルを任意の順番で再生するモードに切り替えます。プレイリストが編集されていない場合はプレイリストの編集画面が表示されます。

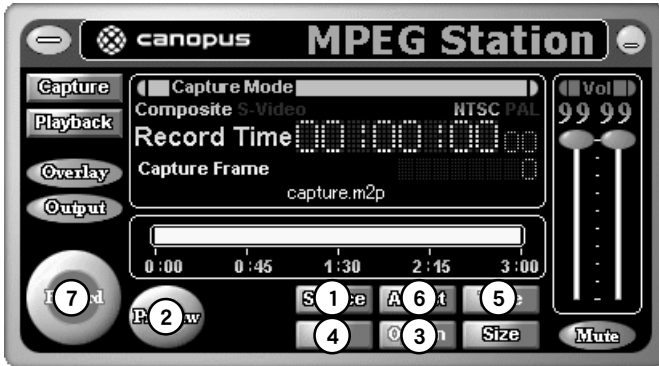
⑰ プレイリスト設定ボタン

プログラム再生モードで使用するファイルの選択と再生の順番を決めるプレイリストを編集します。

- ⑱ オーバーレイサイズ設定ボタン  
オーバーレイ表示する際の表示サイズを設定します。
- ⑲ ファイル選択ボタン  
再生するファイルを選択します。
- ⑳ オプションボタン  
ファイル再生時のパラメータ設定を行ったり、現在選択されているファイルの内容（画像サイズ、ビットレートなど）を表示します
- ㉑ テンキー  
プレイリストで設定されているファイル番号を直接入力すると、指定したファイルが再生されます。
- ㉒ 音量調整フェーダー  
再生時の音量を調整します。左右独立で調整することもできます。マイクロソフト社製インテリマウスなどのホイール機能を搭載したマウスを使用している場合は、ホイールを使用して音量レベルを調整することができます。WAVEファイル再生時の音量の調整はできません。
- ㉓ ミュートボタン  
再生時の音量をゼロにします。もう一度クリックすると元に戻ります。
- ㉔ 結合/分離  
オーバーレイ表示画面とMPEG Stationの操作部を一体表示、分離表示するかを選択します。
- ㉕ 目次検索  
MPEG Stationのオンラインヘルプの目次を表示します。
- ㉖ ポップヒント表示  
このメニューを選択してからMPEG Station上の操作ボタンをクリックすると、そのボタンの機能の説明が表示されます。
- ㉗ ホームページアクセス  
インターネットが使用できる環境でこのメニューを選択するとカノーブス株式会社のホームページにアクセスします。
- ㉘ バージョン情報表示  
MPEG Stationのバージョンを表示します。

## 3-2. キャプチャする

### ■基本操作



ビデオ画像を入力してからMPEG Stationを起動後、キャプチャモード切替ボタンをクリックしてから以下の操作を行います。MPL-D2000にはキャプチャ機能はありませんのでキャプチャは行えません。

- ① ソース切替ボタンを使用して入力するビデオ信号（Sビデオもしくはコンポジットビデオ）を選択します。  
※ 入力信号がNTSCの場合は、Sビデオもしくはコンポジットビデオを自動選択します。
- ② プレビューボタンをクリックしてビデオ入力画像を表示させます。  
※ 入力画像、音声のモニタ方法は、p.42「画像と音声のモニタ」をお読みください。ただし、ビデオ入力画像をモニタ表示しない場合はこの操作は不要です。
- ③ オプション設定ボタンをクリックしてキャプチャパラメータを設定します。  
※ キャプチャパラメータの設定方法は、p.45「キャプチャパラメータの設定」をお読みください。
- ④ キャプチャファイル設定ボタンをクリックしてキャプチャファイル名、保存先のドライブ名を指定します。
- ⑤ キャプチャ時間設定ボタンをクリックしてキャプチャ時間を設定します。  
※ キャプチャ時間の制限をしない場合は、キャプチャ時間設定ボタンをクリックして表示されるダイアログ内の「キャプチャの時間制限」のチェックを外します。
- ⑥ 画質調整ボタンをクリックして入力画像の画質を調整します。  
※ 画質の調整方法は、p.47「キャプチャパラメータの設定－画質調整」をお読みください。
- ⑦ キャプチャボタンをクリックしてキャプチャを開始します。キャプチャを停止するには、もう一度キャプチャボタンをクリックします。

## ■画像と音声のモニタ

### ◇入力画像のモニタ

必要に応じて以下の方法でモニタできます。パソコンのディスプレイ、外付のテレビモニタの両方でモニタする場合は、1. 2. の両方の操作を行ってください。

1. パソコンのディスプレイ上でモニタする  
プレビューボタンをクリックしてから、オーバーレイ表示ボタンをクリックします。
2. 外付のテレビモニタなどでモニタする  
プレビューボタンをクリックしてから、ビデオ出力ボタンをクリックします。

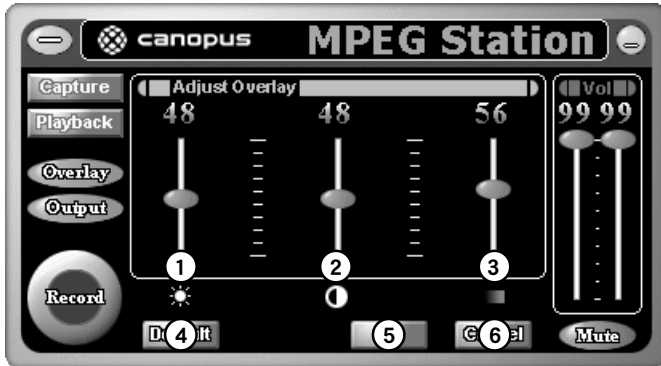
オーバーレイ表示サイズの調整
オーバーレイサイズ設定ボタンをクリックすると設定可能なオーバーレイ表示サイズが表示され、任意のサイズで再生できます。ただし、オーバーレイ表示画面とMPEG Stationの操作部を一体表示している場合は、オーバーレイ表示サイズの変更はできません。



## ◇オーバーレイ表示の画質調整

画質調整ボタンをクリックして「オーバーレイ出力調整」を選択すると以下の画面が表示され、オーバーレイ表示の画質を調整することができます。

**Note** 調整結果はキャプチャファイルの画質には反映されません。



- ① Brightness  
入力画像の明るさを調整します。値が大きいほど明るくなります。
- ② Contrast  
入力画像のコントラストを調整します。値が大きいほどコントラストが高くなります。値が0の時は、コントラストを決めるための輝度成分がない状態になります。
- ③ Saturation  
入力画像の色の濃さを調整します。値が大きいほど色が濃くなります。値が0の時には色成分がない状態（白黒の状態）になります。
- ④ Default  
調整値をデフォルトに戻します。
- ⑤ OK  
調整結果を反映し調整値を記憶後、キャプチャモード画面に戻ります。
- ⑥ Cancel  
調整結果を破棄し、キャプチャモード画面に戻ります。

## ◇入力音声のモニタ

必要に応じて以下の方法でモニタできます。モニタする際の音量は、モニタレベル調整フェーダーで調整してください。

1. アンプ、スピーカーを直接接続する  
MVR-D2000/MPL-D2000のオーディオ出力端子とアンプ付きスピーカーやステレオアンプなどを接続します。
2. サウンドカードと接続する  
MVR-D2000/MPL-D2000のオーディオ出力端子とサウンドカードのライン入力端子を接続します。

※ MVR-D2000/MPL-D2000のオーディオ出力端子はライン出力専用です。ヘッドフォンは、絶対に接続しないでください。接続された場合は機器を破損したり耳を傷める可能性があります。

### こんなこともできます

#### 左右のチャンネルを同時に調整する

モニタレベル調整フェーダー上で右クリックすると「左右のボリュームを同時に調整する」というメニューが表示され、チェックをつけると左右チャンネルの音量を同時に調整することができます。左右独立して調整するには、もう一度フェーダー上で右クリックして「左右のボリュームを同時に調整する」のチェックを外します。

#### マウスのホイールで調整する

マイクロソフト社製インテリマウスなど、ホイール機能を搭載したマウスを使用している場合、フェーダー上でホイールを動かして音量を調整することができます。

## ■ キャプチャパラメータの設定

以下のパラメータを調整してキャプチャファイルのフォーマットを設定します。設定内容を有効にするには[OK]、破棄する場合は[キャンセル]をクリックします。

※ 各タブには以下のボタンがあり、設定内容を簡単に元に戻すことができます。

- ・[デフォルト]

設定内容をすべて破棄し、MPEG Stationインストール直後の設定に戻します。

- ・[元に戻す]

設定内容をすべて破棄し、前回[OK]をクリックした時の設定に戻します。

### ◇MPEGタブ



- ・ 種類

ファイル形式を設定します。「Video CD」は、Video CD形式に準拠したMPEG1ファイルを作成したい場合に選択します。

- ・ ストリーム

ストリームの種類を設定します。ファイル形式としてMPEG1を選択した時は、「プログラムストリーム」は「システムストリーム」に置き換わります。ファイル形式としてVideo CDを選択した時は設定できません。

## ◇ビデオタブ



- ・ **プロファイルとレベル**

プロファイルとレベルを設定します。ファイル形式としてMPEG2を選択した時のみ設定できます。

- ・ **スタンダード**

ビデオ信号形式を設定します。

- ・ **画像サイズ**

キャプチャファイルの画像サイズを設定します。ファイル形式としてMPEG1、Video CDを選択した場合は、「352x240」以外のサイズは選択できません。

- ・ **アスペクト比**

アスペクト比を設定します。

- ・ **ビデオビットレートと符号化形式**

ビデオデータのビットレートと符号化形式を設定します。ビデオビットレートは400bps単位で設定します。400bps単位で指定しなかった場合は自動的に400bps単位の設定値に変更されます。ビットレートを高くすると画質は良くなりますが、ファイルサイズが大きくなります。ビデオデータの符号化形式はCBR、VBRのいずれかに設定します。VBRを選択した時のみ、最大ビットレート（400bps単位）も同時に設定することができます。

- **GOPパターン**

GOPパターンをI Flame（Iピクチャのみで構成されるGOP）、IBBP（I/B/Pの3つのピクチャから構成されるGOP）のいずれかに設定し、以下のパラメータを設定することができます。

- ・ **ピクチャ枚数**

GOP内に含まれるピクチャ枚数を1～30の範囲で設定します。I Flame選択時にはピクチャ枚数は1に固定されます。

- ・ **周期**

IもしくはPピクチャが現れる周期を1～3の範囲で設定します。I Flame選択時には周期は1に固定されます。

- ・ **GOP完結**

この設定を行うと、1つのGOP分のビデオデータとそれに付随するオーディオデータを格納するパックの集まりを1つの単位とし、その中で1つのGOPが完結します。作成するファイルの種類がMPEG1もしくはVideo CDの場合は設定できません。

- ・ **Closed GOP**

GOP内の画像が他のGOPから独立して再生可能なことを示すClosed GOPフラグを設定します。

## ◇オーディオタブ



## ・ サンプルングレート

オーディオ信号のサンプルングレートを設定します。

## ・ オーディオビットレート

オーディオデータのビットレートを設定します。ビットレートを高くすると音質は良くなりますが、ファイルのサイズが大きくなります。

## ・ 形式

オーディオデータの形式を設定します。作成するストリームの種類が、「オーディオ」もしくは「オーディオ+ビデオ」以外、もしくはファイルの種類が「Video CD」に設定されている場合は、「Layer2」以外の形式は選択できません。

## ・ チャネル

オーディオチャネルの種類を設定します。

## ・ エンファシス

エンファシスエンコードを行いたい場合に設定します。

## ・ プロテクション

CRCエラーの検出が行えるファイルを作成したい場合にチェックをつけます。

## ・ オリジナル

オリジナルビットをつけたファイルを作成したい場合にチェックをつけます。

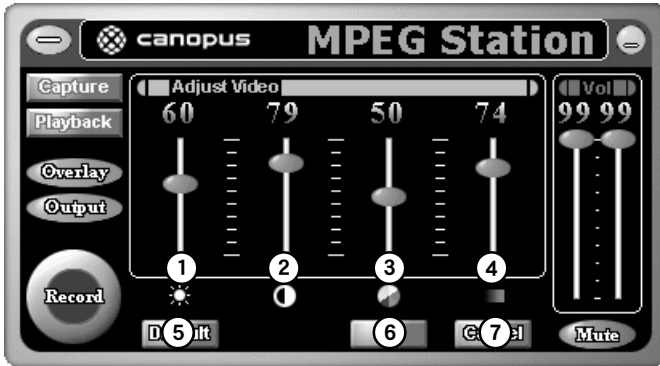
## ・ コピーライト

著作権情報をつけたファイルを作成したい場合にチェックをつけます。

## ◇画質調整

以下のパラメータを調整して入力画像の画質を調整します。

※ 画質の調整を行う前に入力画像をモニタ表示する設定をしてください。



## ① Brightness

入力画像の明るさを調整します。0が最も暗い状態、99が最も明るい状態で、値が大きいくほど輝度が高くなり値が小さいほど輝度が低くなります。

## ② Contrast

入力画像のコントラストを調整します。値が50より大きいほどコントラストが高くなり、値が50より小さいほど入力信号の輝度成分が反転した状態でコントラストが高くなります。値が50の時にはコントラストを決めるための輝度成分がない状態になります。

## ③ Hue

入力画像の色合いを調整します。値が50より大きいほど、赤色→青色がかった色合いになり、値が50より小さいほど、緑色→青色がかった色合いになります。値が50の時には入力信号の色成分を調整しない状態になります。

## ④ Saturation

入力画像の色の濃さを調整します。値が50より大きいほど色が濃くなり、値が50より小さいほど入力信号の色成分を反転した状態で色が濃くなります。値が50の時には色成分がない状態（白黒の状態）になります。

## ⑤ Default

調整値をデフォルトに戻します。

⑥ OK

調整結果を反映し調整値を記憶後、キャプチャモード画面に戻ります。

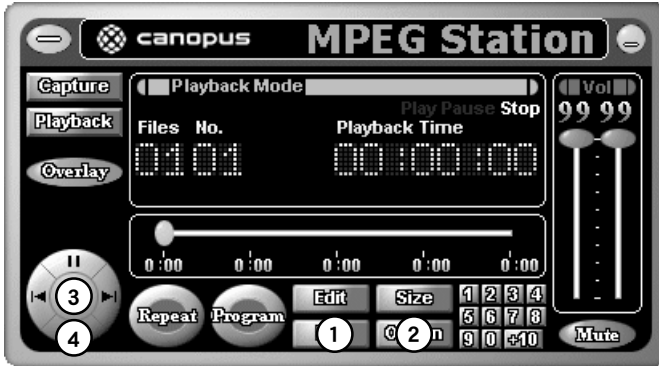
⑦ Cancel

調整結果を破棄し、キャプチャモード画面に戻ります。



## 3-3. 再生する

### ■通常再生



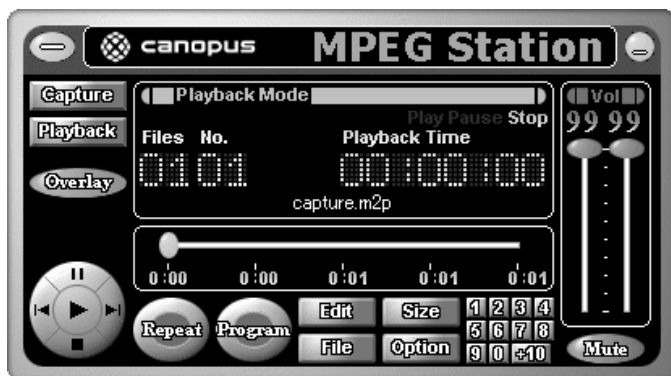
MPEG Stationを起動し、再生モード切替ボタンをクリックした後、以下の操作を行います。

- ① ファイル選択ボタンをクリックして再生するファイルを選択します。
- ② オプションボタンをクリックして再生パラメータの設定とオーバーレイ表示の画質を調整します。  
※ p.56「再生オプションの設定」をお読みください。
- ③ 再生ボタンをクリックします。ファイルが再生され、再生画像がパソコンのディスプレイ、ビデオ出力端子の両方に出力されます。  
※ ビデオ出力のみ行う場合は、オーバーレイ表示ボタンをクリックしてオーバーレイ表示を終了します。
- ④ 停止する場合は停止ボタンをクリックします。  
※ 停止ボタンをクリックすると再生位置はファイルの先頭に戻ります。再生位置を停止直前の位置で保持したい場合は一時停止ボタンをクリックしてください。

#### WAVEファイルの再生について

WAVEファイルの再生にはMVR-D2000/MPL-D2000が動作しているOS上で動作するサウンドカードが必要です。また、再生音はサウンドカードのライン出力端子から出力されますので、サウンドカードのライン出力端子とアンプ付きスピーカーやステレオアンプを接続してください。

## ■プログラム再生



MPEG Stationを起動し、再生モード切替ボタンをクリックした後、以下の操作を行います。

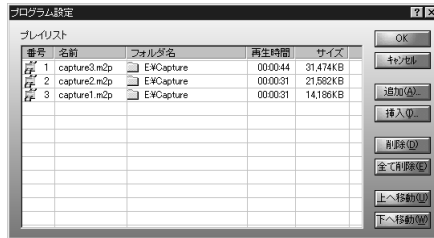
- ① プログラム再生ボタンをクリックしてプログラム再生モードに切り替えます。  
※ プレイリストが編集されていない場合はプレイリスト編集画面が表示されます。
- ② プレイリスト設定ボタンをクリックしてプレイリストを編集します。  
※ プレイリストの編集方法は、p.53「プレイリストの編集」をお読みください。
- ③ オプションボタンをクリックして再生パラメータの設定とオーバーレイ表示の画質を調整します。  
※ p.56「再生オプションの設定」をお読みください。
- ④ 再生ボタンをクリックします。プレイリストの内容に従ってファイルが再生され、再生画像がパソコンのディスプレイ、ビデオ出力端子の両方に出力されます。  
※ ビデオ出力のみ行う場合は、オーバーレイ表示ボタンをクリックしてオーバーレイ表示を終了します。
- ⑤ 停止する場合は停止ボタンをクリックします。  
※ 停止ボタンをクリックすると再生位置はファイルの先頭に戻ります。再生位置を停止直前の位置で保持したい場合は一時停止ボタンをクリックしてください。

## ■プレイリストの編集

プレイリスト編集ボタン、もしくはプログラム再生ボタン（プレイリストが編集されていない場合のみ）をクリックすると以下の画面が表示されプレイリストの編集を行うことができます。編集完了後、[OK]をクリックするとプレイリストを閉じてMPEG Stationに戻ります。編集を破棄したい場合は[キャンセル]をクリックします。

※ プレイリストを開いたままMPEG Stationを操作することはできません。

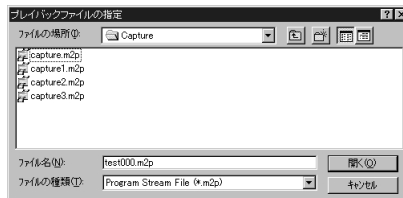
**Note** 選択項目を右クリックすると[ファイル情報]ダイアログが表示されます。



## ◇ファイルの登録

[追加]をクリックします。以下のウィンドウが表示されますので、リストに登録したいファイルを選択して[開く]をクリックします。登録されたファイルには上から順番に1から始まるファイル番号がつきます。

※ Ctrlキーを使って選択すると複数選択することができます。



## ◇登録の削除

削除したいファイルをマウスで選択し、[削除]をクリックします。すべての登録を削除する場合は[全て削除]をクリックします。

## ◇ファイルの挿入

プレイリスト上の任意の位置にファイルを挿入することができます。

※例としてファイル番号1と2の間にファイルを挿入する手順を説明します。

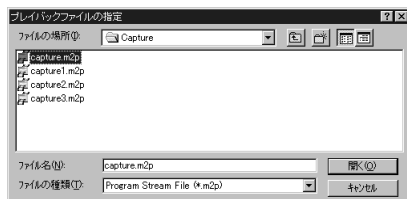
## 1 マウスでファイル番号2のファイルを選択します。

ファイルの挿入位置



## 2 [挿入]をクリックします。以下のウィンドウが表示されますので、リストに登録したいファイルを選択して[開く]をクリックします。

※ Ctrlキーを使って選択すると複数選択することができます。



## 3 選択したファイルがファイル番号2の位置に登録され、登録前のファイルは下の位置に移動します。

挿入されたファイル



## ◇再生順番の変更

移動ボタン（[上へ移動][下へ移動]）を使ってファイルを再生する順番を変更することができます。

※例としてファイル番号1のファイルを3番目に再生する設定の手順を説明します。

## 1 マウスで再生する順番を変更したいファイルを選択します。



## 2 移動ボタン使用してファイルを3番目の位置に移動します。

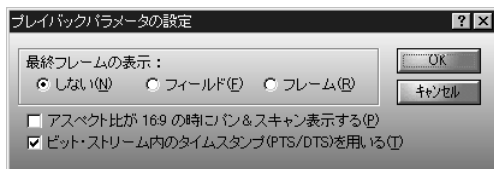


## ■再生オプションの設定

再生時には必要に応じて以下の設定を行うことができます。

### ◇再生パラメータの設定

オプションボタンをクリックして「プレイバックパラメータの設定」を選択すると、以下の画面が表示され、再生パラメータを設定することができます。



#### ・ 最終フレームの表示

動画ファイルの再生が終わった時の画面の表示方法を以下のいずれかに設定します。

##### ・ しない

画面の表示を真っ黒の状態にします。デフォルトではこの設定が選択されています。

##### ・ フィールド

フィールドスチルの状態で最終の画面を表示します。

##### ・ フレーム

フレームスチルの状態で最終の画面を表示します。

#### ・ アスペクト比が16:9の時にパン&スキャン表示する

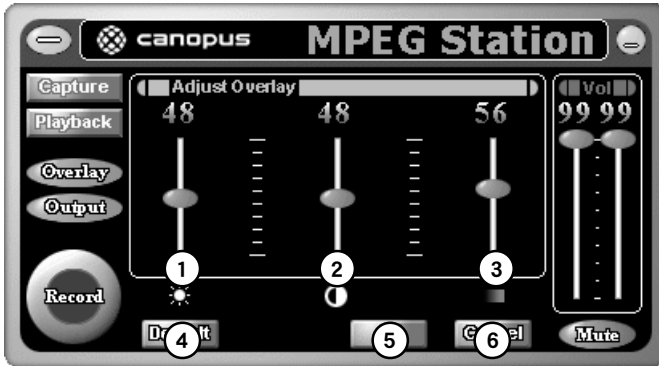
アスペクト比が16:9の画像を再生する時にパン&スキャン（左右の切れた画面）でファイルを再生します。デフォルトでは使用しない設定（チェックが外れた状態）になっています。なお、アスペクト比が16:9の画像をレターボックス表示することはできません。

#### ・ ビットストリーム内のタイムスタンプ(PTS/DTS)を用いる

MPEG1システムストリームもしくはMPEG2プログラムストリーム再生時に、ビットストリーム内のタイムスタンプ（PTS/DTS）を使用する場合にチェックをつけます。デフォルトでは使用する設定（チェックがついた状態）になっています。タイムスタンプを使用しない場合は、画像と音声の同期がずれる場合があります。

## ◇オーバーレイ表示の画質調整

オプションボタンをクリックして「オーバーレイ出力調整」を選択すると、以下の画面が表示され、オーバーレイ表示の画質を調整することができます。



## ① Brightness

入力画像の明るさを調整します。値が大きいほど明るくなります。

## ② Contrast

入力画像のコントラストを調整します。値が大きいほどコントラストが高くなります。値が0の時は、コントラストを決めるための輝度成分がない状態になります。

## ③ Saturation

入力画像の色の濃さを調整します。値が大きいほど色が濃くなります。値が0の時には色成分がない状態（白黒の状態）になります。

## ④ Default

調整値をデフォルトに戻します。

## ⑤ OK

調整結果を反映し調整値を記憶後、再生モード画面に戻ります。

## ⑥ Cancel

調整結果を破棄し、再生モード画面に戻ります。

## ◇ファイル情報の表示

オプションボタンをクリックして「ファイル情報」を選択すると以下の画面が表示され、現在選択されているファイルの情報が表示されます。



- ・ **全般タブ**

ファイル形式や保存されているドライブ、フォルダ名、再生時間、ファイルサイズを表示します。

- ・ **ビデオ情報タブ**

ビデオトラックのフォーマットを表示します。選択したファイルがオーディオデータのみの場合は、このタブは表示されません。

- ・ **オーディオ情報タブ**

オーディオトラックのフォーマットを表示します。選択したファイルがビデオデータのみの場合は、このタブは表示されません。

## ◇オーバーレイ表示サイズの調整

オーバーレイサイズ設定ボタンをクリックすると設定可能なオーバーレイ表示サイズが表示され、任意のサイズで再生できます。ただし、オーバーレイ表示画面とMPEG Stationの操作部を一体表示している場合は、オーバーレイサイズの変更はできません。

## ◇音量の調整

再生音量の調整は、音量調整フェーダーで調整してください。音量調整フェーダー上で右クリックすると「左右のボリュームを同時に調整する」というメニューが表示され、チェックをつけると左右チャンネルの音量を同時に調整することができます。左右独立して調整するには、もう一度フェーダー上で右クリックして「左右のボリュームを同時に調整する」のチェックを外します。また、マイクロソフト社製インテリマウスなど、ホイール機能を搭載したマウスを使用している場合、フェーダー上でホイールを動かして音量を調整することができます。

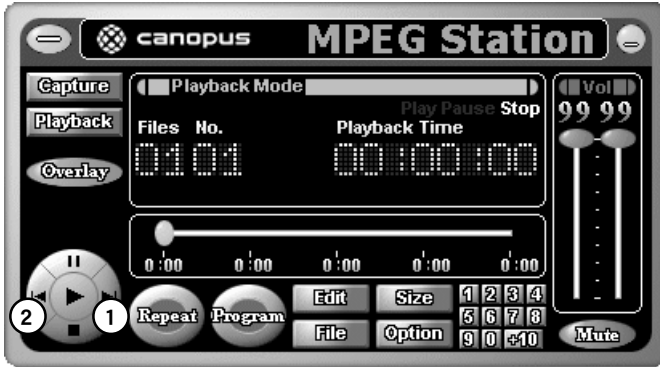
※ WAVEファイル再生時の音量はMPEG Stationで調整することはできません。Windows ミキサーで調整してください。



## ■ ファイルサーチ

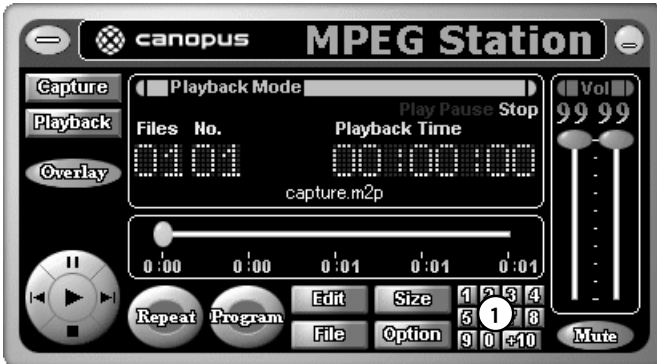
プログラム再生モード時に再生、もしくは停止時に再生したいファイルをサーチすることができます。

### ◇ サーチボタンを使用したサーチ



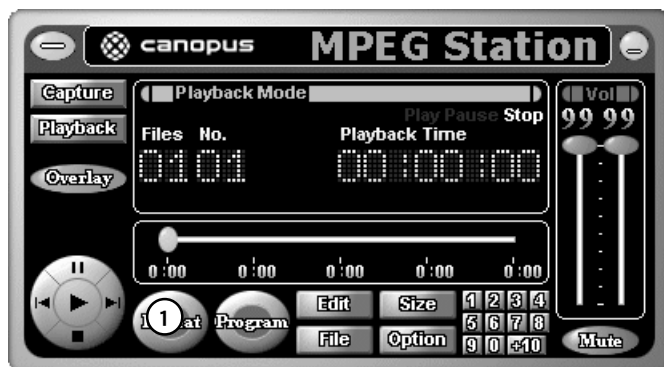
- ① 現在再生されているファイルの次のファイルをサーチします。
- ② 現在再生されているファイルの前のファイルをサーチします。

### ◇ テンキーを使用したサーチ



- ① 再生したいファイル番号（プログラムリストに表示されている番号）を指定します。

## ■ リピート再生



通常再生、プログラム再生モード時にファイルをリピート再生することができます。

- ① 再生中、もしくは停止中にリピートボタンをクリックするとリピート再生します。プログラム再生モード時はプレイリストに登録されているすべてのファイルをリピート再生します。再生中、もしくは停止中にもう一度クリックするとリピート再生が解除されます。

## 3-4. 詳細エンコードパラメータ

### ■概要

MVR-D2000 Ver3.00 から MPEG Station を使ったエンコード時、アプリケーションの標準の設定画面では設定できない詳細なパラメータを、詳細エンコード・パラメータ設定ファイルを使用して設定することができるようになりました。

なお、このパラメータ設定には専門的な知識を必要とします。専門知識をお持ちでないユーザー様は、一般的なパラメータが設定されているデフォルトの状態での使用をお勧めします。

### ■使用方法

次の起動オプションを付加し、MPEG Station を起動ください。

Mstation.exe [/VEP:ファイル名] [/ID:ボード番号]

**/VEP:ファイル名**      詳細エンコード・パラメータを有効にするスイッチとそのファイル名

**/ID:ボード番号**      複数枚起動用スイッチ  
[ :ボード番号]は起動するボード番号(指定しなければ、使用可能なボードを自動的に探して起動する)

**Note** 詳しいコマンドの説明やパラメータの説明は、MVR-D2000 モジュールをインストールしたフォルダ（デフォルトは Program Files-Canopus-MVR-D2000）にある VideoEncoderParams.TXT を参照ください。



## 第4章

# DV-MPEG ファイルコンバータ

この章では、DV-MPEG ファイルコンバータの使用方法について説明します。本機能はMPL-D2000ではご使用いただけません。

- ・ 起動と各部の機能
- ・ ファイルの変換

本機能をご使用いただく場合、本書p. 29「2-7. MR-D2000プロパティ」の項にある「AVI ファイルをMPEGに変換する」にチェックがついている必要があります。

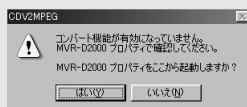
## 4-1. 起動と各部の機能

本機能はMPL-D2000ではご使用いただけません。。

### ■ 起動方法

[スタート]ボタンをクリックして、[プログラム]→[MVR-D2000]と進み、[DV-MPEG ファイルコンバータ]を選択するとDV-MPEGファイルコンバータが起動します。

MVR-D2000 プロパティの設定(本書 p. 29 参照)において「AVI ファイルを MPEG に変換する」の項目にチェックがついていない場合、DV-MPEG ファイルコンバータ起動時に以下のメッセージが表示されます。設定変更後、パソコンの再起動を行ってから DV-MPEG ファイルコンバータを起動し直してください。



### ■ 各部の機能

[DV-MPEGファイルコンバータ]を起動すると以下のウィンドウが表示されます。



**Note** 画面は▼ボタンをクリックした状態のものです。画面は説明用ですので実際に表示されるウィンドウとは異なります。

- ① 変換元ファイルを指定します。

**Note** エクスプローラからのドラッグ&ドロップでも入力できます。

- ② 変換元ファイルのプレビューを行うためのメニューを表示します。

**Note** お使いのパソコン環境によりメニューの表示内容は異なります。

- ③ ▼ボタンをクリックすると開始フレーム及び終了フレームを指定するためのウィンドウが拡張表示されます。▲ボタンをクリックすると元のウィンドウに戻ります。
- ④ 数値を直接入力するか、スライダを使用して開始フレームを指定します。
- ⑤ 数値を直接入力するか、スライダを使用して終了フレームを指定します。
- ⑥ オプション設定ウィンドウを表示します。
- ⑦ ファイル変換を行うためのウィザードを開始します。
- ⑧ DV-MPEGファイルコンバータを終了します。
- ⑨ 複数ファイルをコンバートする場合の[ファイルリストを使用する]選択時に指定します。

**Note** 変換を行う複数のファイルを[変換ファイルリスト]にドラッグするなどしてリストに加え、[CONV]をクリックすることでファイルの一括変換が行えます。



**Note** 画面は▼ボタンをクリックした状態のものです。画面は説明用ですので実際に表示されるウィンドウとは異なります。

**Note** 開始フレーム及び終了フレームのプレビュー画面上でダブルクリックした場合、フレームリストを表示します。◀▶ ボタンをクリックすると表示するフレームを前後させることができます。また、リスト上にある画面を左クリックすることで、フレームの指定を行うことができます。




開始フレーム及び終了フレームのプレビュー画面上で右クリックした場合、該当フレームのキャプチャを行えます。[ビットマップのコピー]を選択すると、該当するフレームの画面キャプチャがクリップボードに転送されます。[ビットマップの保存]を選択すると、該当するフレームの画面キャプチャをファイルとして保存することができます。また、プレビュー画面上で左ドラッグし、デスクトップ上でドロップすることでも該当フレームの画面キャプチャをファイルとして保存できます(但しこの場合、ファイル名は自動的に割り当てられます)。[ビットマップの表示]を選択すると、BitmapViewに静止画が表示されます。





## 4-2. ファイルの変換

### ■ファイル変換の手順

- 1 [映像]もしくは[音声]フィールドに変換元のファイル名を直接入力するか、 ボタンをクリックしファイル名を指定する、またはエクスプローラから直接ファイルをドラッグ&ドロップしファイルを指定します。



**Note** 音声があらかじめキャプチャされたDV形式AVIのファイル変換を行う場合は、[音声は映像と同じファイルを使用]にチェックをつけてください。

変換元のファイルのプレビューを行う場合は、 ボタンをクリックしてください。

- 2 ファイルの一部分だけを変換する場合は、▼ボタンをクリックしてください。スライダを使用し、開始フレーム及び終了フレームを指定し、[コンバート]をクリックします。ファイル全体をコンバートする場合は、ファイル選択後、[コンバート]をクリックし、手順5に進んでください。



**Note** ▲ボタンをクリックすると手順1のウィンドウに戻ります。

### 3 変換時のオプション設定を行う場合は、[オプション]をクリックします。設定後、[OK]をクリックしてください。



#### フィルタタブ

##### ・垂直フィルタ

動きが少ない画像に対して、ちらつきを抑えるフィルタです。設定値が[100]の場合は、プログレッシブ表示と同等の状態になります。

垂直フィルタを使用する場合は、チェックを付けます。チェックを付けると[強さ]がアクティブになり、設定できるようになります。

##### ・強さ

フィルタのかかり具合をスライダを使用して調整します。

##### ・マトリックスフィルタ

動きが激しい画像に対して、ざわつきを抑えるフィルタです。

マトリックスフィルタを使用する場合は、チェックを付けます。チェックを付けると[種類]がアクティブになり、プルダウンメニューから選択できるようになります。

##### ・種類

▼ボタンをクリックし、プルダウンメニューからプリセットされている設定を選択します。

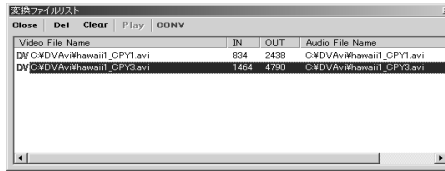
##### ・プレビュー(開始フレーム/終了フレーム)

設定したフィルタのトライアルプレビューを行います。[開始フレーム]もしくは[終了フレーム]のどちらか効果を確認したい方を選択すると、[BitmapView]ウィンドウが表示されます。フィルタ効果の参考にしてください(表示された静止画は実際に変換されたデータではなく、設定値を演算したものです)。

#### コーデックタブ

変換で使用するコーデックを選択します。このタブおよび一覧表は、DV-MPEGファイルコンバータで使用可能なコーデックが複数存在しない場合には表示されません。

- 4** 複数のファイルを連続してコンバートする場合は、システムメニュー(本書p.64 DV-MPEG ファイルコンバータ画面の⑨部分をクリックする)から[ファイルリストを使用する]を指定し、[変換ファイルリスト]を起動します。



[変換ファイルリスト]へのファイルの登録は、ファイルを指定後、[追加]をクリックします。

**Note** [変換ファイルリスト]を起動させると、[コンバート]ボタンが[追加]ボタンに変わります。

**Note** IN点、OUT点などの表示幅はマウスでクリックすることで調整できます。

- **Close**  
ファイルリストを閉じます。終了時には登録されている情報は破棄されます。
- **Del**  
ファイルリスト上の選択されているアイテムを破棄します。
- **Clear**  
ファイルリストのアイテムをすべて破棄します。
- **Play**  
変換後のファイルを再生して確認します。
- **Conv**  
ファイルリストのアイテムを順番に変換します。変換が正常に終了した場合、アイコンがOKになります。失敗した場合にはNGになります。
- **アイテム上での右クリック**  
選択しているアイテムだけを変換します。
- **アイテム上でのダブルクリック**  
選択しているアイテムをメインの画面上で表示します。メインの画面上で開始フレーム、終了フレームを変更した場合、[追加]ボタンで再度登録する必要があります。

**Note** エクスプローラから複数のファイルをドラッグ&ドロップでリストに追加することができます。メインの画面に複数のファイルをドラッグ&ドロップした場合は、自動的に[変換ファイルリスト]が起動します。

## 5 ファイル変換後に作成されるMPEGファイル形式を指定します。



- **MPEG1 システム ストリーム**

映像と音声を多重化して1つのファイルに記録します。

- **MPEG1 エレメンタリ ストリーム**

ビデオとオーディオをエンコードしてそれぞれ別個のファイルとして同時に記録します。[映像]もしくは[音声]を指定することで映像または音声を単独でエンコードできます。[Waveファイルとして保存]にチェックを入れた場合は、映像をエンコードし、音声は非圧縮のPCMデータとしてそれぞれ別個のファイルに同時に記録できます。

- **MPEG2 プログラム ストリーム**

ビデオとオーディオを多重化して1つのファイルに記録します。

- **MPEG2 エレメンタリ ストリーム**

ビデオとオーディオをエンコードしてそれぞれ別個のファイルとして同時に記録します。[映像]もしくは[音声]を指定することで映像または音声を単独でエンコードできます。[Waveファイルとして保存]にチェックを入れた場合は、映像をエンコードし、音声は非圧縮のPCMデータとしてそれぞれ別個のファイルに同時に記録できます。

- **Video CD**

Video CD形式に準拠したMPEG1ファイルを作成します。音声のサンプリングレートが44100Hzで記録されていないデータの場合、この項目は選択できません。

⇒ 設定後、[次へ]をクリックします。

## 6 ビデオデータに関する設定を行います。



●Video CDを選択した場合



**Note** 変換するファイル形式により表示ウィンドウは異なります。

Video CD形式を選択した場合、手順5において次頁に記載されているオーディオに関する設定を行います(設定項目の説明については次頁参照)。

### ・ビットレート

ビデオデータのビットレートと符号化形式を設定します。ビデオビットレートは400bps単位で設定します。400bps単位で指定しなかった場合は自動的に400bps単位の設定値に変更されます。ビットレートを高くすると画質は良くなりますが、ファイルサイズが大きくなります。ビデオデータの符号化形式はCBR、VBRのいずれかに設定します。VBRを選択した時のみ、最大ビットレート（400bps単位）も同時に設定することができます。

### ・GOPパターン

GOPパターンをI Flame（1ピクチャのみで構成されるGOP）、IBBP（I/B/Pの3つのピクチャから構成されるGOP）のいずれかに設定し、以下のパラメータを設定することができます。

#### ・ピクチャ枚数

GOP内に含まれるピクチャ枚数を1～30の範囲で設定します。I Flame選択時にはピクチャ枚数は1に固定されます。

#### ・周期

IもしくはPピクチャが現れる周期を1～3の範囲で設定します。I Flame選択時には周期は1に固定されます。

#### ・GOP完結（音声のサンプリングレートが48000Hzの場合は、設定可能）

この設定を行うと、1つのGOP分のビデオデータとそれに付随するオーディオデータを格納するパックの集まりを1つの単位とし、その中で1つのGOPが完結します。作成するファイルの種類がMPEG1の場合は表示されません。

#### ・Closed GOP

GOP内の画像が他のGOPから独立して再生可能なことを示すClosed GOPフラグを設定します。

### ・プロファイルとレベル

プロファイルとレベルを設定します。作成するファイルの種類がMPEG1の場合は表示されません。

### ・画像サイズ

キャプチャファイルの画像サイズを設定します。ファイル形式としてMPEG1を選択した場合は、コンボボックスは表示されません。

⇒ 設定後、[次へ]をクリックします。

## 7 オーディオデータに関する設定を行います。



**Note** 変換するファイル形式により表示ウィンドウは異なります。

Video CD形式を選択した場合、本書p.71に記載されている手順6においてオーディオに関する設定を行います。

### ・ サンプリングレート

オーディオ信号のサンプリングレートが表示されます。

### ・ ビットレート

オーディオデータのビットレートを設定します。ビットレートを高くすると音質は良くなりますが、ファイルのサイズが大きくなります。

### ・ 形式

オーディオデータの形式を設定します。「Layer2」以外の形式は選択できません。

### ・ チャネル

オーディオチャネルの種類を設定します。

### ・ エンファシス

エンファシスエンコードを行う場合に設定します。

### ・ プロテクション

CRCエラーの検出が行えるファイルを作成する場合にチェックをつけます。

### ・ オリジナル

オリジナルビットをつけたファイルを作成する場合にチェックをつけます。

### ・ コピーライト

著作権情報をつけたファイルを作成する場合にチェックをつけます。

⇒ 設定後、[次へ]をクリックします。

## 8 データの出力に関する設定を行います。



**Note** 変換するファイル形式により表示ウィンドウは異なります。

### ・映像ファイル

変換するファイル形式がMPEG1 エレメンタリストリームもしくはMPEG2エレメンタリストリームの場合は、変換後に作成される映像ファイル名(パス名も含む)をフィールドにキー入力できます。[ドライブ参照]及び[ファイル参照]のボタンが有効になります。

### ・音声ファイル

変換するファイル形式がMPEG1 エレメンタリストリームもしくはMPEG2エレメンタリストリームの場合は、変換後に作成される音声ファイル名(パス名も含む)をフィールドにキー入力できます。[ドライブ参照]及び[ファイル参照]のボタンが有効になります。

### ・MPEGファイル

変換するファイル形式がMPEG1 システムストリーム、MPEG2 プログラムストリームもしくはVideo CDの場合は、変換後に作成されるファイル名(パス名も含む)をフィールドにキー入力できます。[ドライブ参照]及び[フォルダ参照]のボタンが有効になります。

### ・出力フォルダ

[出力フォルダを指定する]にチェックをつけた場合、変換後のファイルを任意のフォルダ内に作成することができます。出力するフォルダを指定してください。この場合、アクティブ状態のフィールドにはファイル名のみ(ファイル名のキー入力も可能)が表示されます。[ドライブ参照]及び[フォルダ参照]のボタンが有効になります。

### ・プレビュー

変換作業中にプレビュー画面の表示を行う場合は、チェックをつけてください。

**Note** 複数ファイル変換時には出力フォルダのみの指定となり、ファイル名の設定は行えません。自動的にソースファイル名の拡張子だけ変更したファイルが作成されます。また、同名のファイルが存在する場合は、無条件に上書きを行います。

## 9 [コンバート]をクリックします。

⇒ ファイルの変換を開始します。



## 10 ファイルのコンバートが終了しました。

⇒ コンバートされたファイルを再生する場合は、[再生]ボタンをクリックします。

⇒ DV-MPEGファイルコンバータを終了する場合は、[完了]ボタンをクリックします。



**Note** 複数ファイル変換時には、変換後のファイル名およびファイルサイズは表示されません。変換後のファイル再生は、このウィンドウからではなく、[変換ファイルリスト]から Playを選択してください。

以上でファイルの変換作業は完了です。



## 第5章

この章では、MVR-D2000に付属の Premiere Plug-in の使用方法について説明します。本機能はMPL-D2000ではご使用いただけません

### Premiere Plug-in

- ・ 概要
- ・ 使用方法

本機能をご使用いただく場合、アプリケーションのインストール時に「Premiere Plug-in」のモジュールとあわせて「DV to MPEG Converter」のモジュールをインストールする必要があります。また、本書p. 29「2-7. MVR-D2000プロパティ」の項にある「AVIファイルをMPEGに変換する」にチェックがついている必要があります。

## 5-1. 概要

### ■Premiere Plug-in（プラグイン）について

MVR-D2000 Version 3.00以降では、Adobe Premiere 5.x用のプラグインが付属されています。付属のPremiereプラグインは次の2種類です。本機能はMPL-D2000ではご使用いただけません

#### 1. Movie Compiler Module

Premiereで編集したデータをMVR-D2000を利用してMPEGファイルにエンコードします。DV-MPEG ファイルコンバータと同等のパラメータ設定が行えます。

#### 2. Record Module

Premiere上でMVR-D2000を利用したキャプチャが行えます。MPEG2でのキャプチャも行えますが、Premiere が MPEG1 にのみ対応しているため、デフォルトではMPEG1でのキャプチャを行います。

**Note** Premiereプラグインを使用する場合は、必ずMVR-D2000のセットアップを行う前にPremiereのインストールを行ってください。

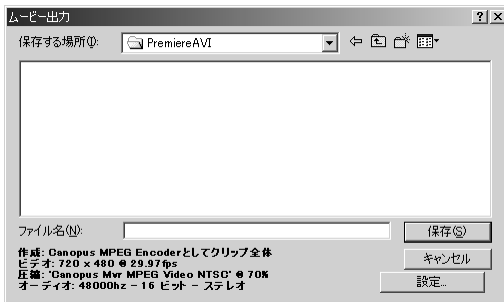
**Note** MPEGパラメータの設定ウィンドウの説明については、DV-MPEGファイルコンバータおよびMPEG Stationの項を参考にしてください。

## 5-2. 使用方法

### ■Movie Compiler Module

ここでは、Premiere 5.1cを例に説明します。

- 1 編集後、出力したい場所を選択し、[ファイル]－[出力]－[ムービー]もしくは[ファイル]－[出力]－[オーディオ]を指定し、出力ファイル設定ウィンドウを表示します。



- 2 [設定...]を指定し、[出力設定]ウィンドウを表示します。



- 3 [出力設定]－[ファイルの種類]が[Canopus MPEG Encoder]になっていることを確認します。
- 4 [詳細設定]を指定し、パラメータを設定します。
- 5 [OK]を指定し、エンコードの準備は完了です。

**6** 手順1.のウィンドウのファイル名欄に出力したいファイル名（拡張子も含む）を入力します。

**7** [保存]を指定すると、設定内容を確認するウィザードが開始され、ウィザード終了と共にエンコードが開始されます。

### ◆ PremiereでのMPEGファイル出力時の注意事項

「ムービー出力設定」-「キーフレームとレンダリングオプション」-「フィールド設定」を指定し、出力元の映像フォーマットに応じたフィールド（フレーム単位で見た場合の一番上のライン）設定を正しく行ってください。この設定が正しく行われていない場合、出力したMPEG2ファイルを再生する際（特にTVでご覧いただく場合に顕著に現われます）にフィールドの表示順序が入れ替わり、映像の横方向に動く部分が、ガクガクした動きとなります。

一番上のラインがODDフィールドである場合、  
「上位フィールドから」を指定してください。

一番上のラインがEVENフィールドである場合、  
「下位フィールドから」を指定してください。

出力元の映像がCanopus DV形式、またはCanopus Motion JPEG形式である場合には、一番上のラインはEVENフィールドとなりますので、「下位フィールドから」を指定してください。

出力元の映像がフィールド構造を持たない場合（縦方向の解像度が240以下のAVIファイルやMPEG1ファイルの場合など）は、「上位フィールドから」を指定してください。

**Note** 「キーフレームとレンダリングオプション」の設定ウィンドウは、プロジェクト設定の中にもあります。プロジェクト設定側の設定を変更しても、上記の動作に効果は反映されませんのでご注意ください。

「ファイル」-「出力」-「ムービー」を指定し、「設定」ボタンをクリックした時に表示されるウィンドウで設定してください。

## ■Record Module

- 1 [プロジェクト]－[設定]－[キャプチャ]を指定し、設定画面を表示します。



**Note** [Standard]をクリックすると映像方式(NTSCとPAL)を切り替えることができます。使用する映像方式にチェックをつけてください。

- 2 [キャプチャ形式]が[Canopus MPEG Encoder]になっていることを確認します。
- 3 [MPEG Option]を指定し、パラメータを変更することができます。変更されない場合は、そのまま手順4.へ進んでください。
- 4 [OK]をクリックし、キャプチャの準備は完了です。
- 5 [ファイル]－[キャプチャ]－[ムービーキャプチャ]を指定するとキャプチャが開始されます。なお、「ストップモーション」には対応していません。



## 第6章

### DVRex-RT (RTEngine) / DVRex-RT Professional / DVStorm-RTとの連携

この章では、RexEditおよびStormEditでのMPEG変換機能について説明します。本機能はMPL-D2000ではご使用いただけません。

- ・ 概要
- ・ 使用方法

本機能をご使用いただく場合、アプリケーションのインストール時に「Premiere Plug-in」のモジュールとあわせて「DV to MPEG Converter」のモジュールをインストールする必要があります。また、本書p. 29「2-7. MR-D2000プロパティ」の項にある「AVIファイルをMPEGに変換する」にチェックがついている必要があります。必要なモジュールを追加するため、MR-D2000のインストール後にDVRexアプリケーションの再インストールが必要となります。

## 6-1. RexEditでのMPEGファイルの変換

### ■MPEGファイルへ変換する

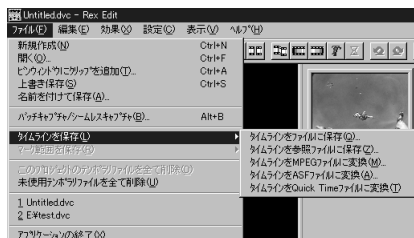
本製品とDVReX-RT (RT Engine) /DVReX-RT Professional/DVStorm-RTを組み合わせることで、RexEdit (Ver. 2.9以上) およびStormEditのタイムライン上にあるビデオデータをMPEGファイル形式へ変換することが可能になります。ここではRexEditを例にタイムラインを変換する方法を説明します。ビットレートの応用例をp. 88に記載していますので、ファイル変換の際の参考にご活用ください。なお、30フレーム未満のクリップは変換できません。本機能はMPL-D2000ではご使用いただけません。

**Note** 変換中は、RexEditの映像表示領域に映像は表示されません(ビデオ出力も不可)。

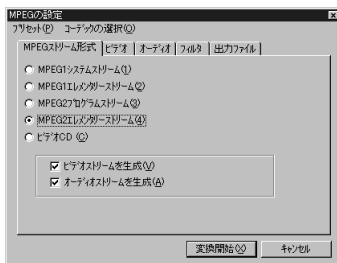
**Note** RexEditで変換後のMPEG2形式ファイルを再生する場合、タイムラインヘドラッグ&ドロップするか、[ファイル]メニューの[ピンウィンドウにクリップを追加]を選択(この時、ファイルの種類はAll Filesを選択)し、ファイルをダブルクリックすることでプレビューできます(ただし、音声は出力されません)。

### ■タイムライン全体を変換する

#### 1 [ファイル]メニューから[タイムラインをMPEGに変換]を選択します。



#### 2 ファイル変換後に作成されるMPEGファイル形式を指定します。





**Note** 変換するMPEGストリーム形式により以下の手順で行うビデオ・オーディオ等のタブで設定可能な項目は異なります。

- **MPEG1 システムストリーム**

ビデオとオーディオを多重化して1つのファイルに記録します。

- **MPEG1 エレメンタリーストリーム**

ビデオとオーディオをエンコードしてそれぞれ別個のファイルとして同時に記録します。[ビデオストリームを生成]もしくは[オーディオストリームを生成]を指定することでビデオまたはオーディオを単独でエンコードできます。

- **MPEG2 プログラムストリーム**

ビデオとオーディオを多重化して1つのファイルに記録します。

- **MPEG2 エレメンタリーストリーム**

ビデオとオーディオをエンコードしてそれぞれ別個のファイルとして同時に記録します。[ビデオストリームを生成]もしくは[オーディオストリームを生成]を指定することでビデオまたはオーディオを単独でエンコードできます。

- **Video CD**

Video CD形式に準拠したMPEG1ファイルを作成します。元データのオーディオサンプリングレートが32000Hz/12Bit,32000Hz/16Bit,48000Hz/16Bitの場合、サンプリングレートは44100Hz/16Bitに変換されます。

### 3 [ビデオ]タブをクリックし、ビデオデータに関する設定を行います。



**Note** 変換するMPEGストリーム形式により表示ウィンドウは異なります。

- **プロファイルとレベル**

プロファイルとレベルを設定します。作成するファイルの種類がMPEG1の場合は表示されません。

- **イメージサイズ**

画像サイズを設定します。ファイル形式としてMPEG1を選択した場合は、コンボボックスは表示されません。

- **ビットレート**

ビデオデータのビットレートと符号化形式を設定します。ビデオビットレートは400bps単位で設定します。400bps単位で指定しなかった場合は自動的に400bps単位の設定値に変更されます。ビットレートを高くすると画質は良くなりますが、ファイルサイズが大きくなります。ビデオデータの符号化形式はCBR、VBRのいずれかに設定します。VBRを選択した場合、[ビットレート]は平均ビットレートの設定になります。VBRを選択した場合のみ、最大ビットレート（400bps単位）も同時に設定することができます。

## ・ GOPパターン

GOPパターンをIフレーム（ピクチャのみで構成されるGOP）、IBBP（I/B/Pの3つのピクチャから構成されるGOP）のいずれかに設定し、以下のパラメータを設定することができます。

### ・ ピクチャ枚数

GOP内に含まれるピクチャ枚数を[1～30]の範囲で設定します。Iフレーム選択時にはピクチャ枚数は[1]に固定されます。

### ・ 周期

IもしくはPピクチャが現れる周期を[1～3]の範囲で設定します。Iフレーム選択時には周期は[1]に固定されます。

### ・ GOP完結

この設定を行うと、1つのGOP分のビデオデータとそれに付随するオーディオデータを格納するパックの集まりを1つの単位とし、その中で1つのGOPが完結します。作成するファイルの種類がMPEG1の場合は表示されません。

### ・ Closed GOP

GOP内の画像が他のGOPから独立して再生可能なことを示すClosed GOPフラグを設定します。

## 4 [オーディオ]タブをクリックし、オーディオデータに関する設定を行います。



**Note** 変換するファイル形式により表示ウィンドウは異なります。

### ・ サンプリングレート

オーディオ信号のサンプリングレートが表示されます。

### ・ ビットレート

オーディオデータのビットレートを設定します。ビットレートを高くすると音質は良くなりますが、ファイルのサイズが大きくなります。

### ・ 形式

オーディオデータの形式を設定します。

### ・ チャネル

#### ・ ステレオ

左右の位相が比較的似ている場合に選択します。

#### ・ ジョイント

左右の位相がほとんど同じ場合に選択します。

#### ・ デュアル

左右の位相が大きく異なる場合に選択します。

#### ・ MONO

モノラルにする場合に選択します。

### ・エンファシス

エンファシスエンコードを行う場合に設定します。再生に使用するシステムとの互換性のための設定です。通常はチェックをつける必要はありません。

### ・プロテクション

CRCエラーの検出が行えるファイルを作成する場合にチェックをつけます。Video CDを選択している場合は、チェックをつけないでください。

### ・オリジナル

オリジナルビットをつけたオーディオファイルを作成する場合にチェックをつけます。このデータがコピーではなくオリジナルデータであることを示します。

### ・コピーライト

著作権保護情報をつけたファイルを作成する場合にチェックをつけます。オリジナルで創作したデータ以外にはチェックをつけないでください。

## 5

[フィルタ]タブをクリックし、フィルタに関する設定を行います。



### ・垂直フィルタ

動きが少ない画像に対して、ちらつきを抑えるフィルタです。フィルタを有効にする場合は、チェックをつけ、スライダでフィルタのかかり具合を調整してください。動きが激しい画像に効果を大きくかけると、動きがカクカクする場合があります。

### ・マトリックスフィルタ

動きが激しい画像に対して、ざわつきを抑えるためのフィルタです。フィルタを有効にする場合は、チェックをつけフィールドに数値(255から255)を直接入力し、設定してください。9つのフィールドが中心(真ん中のフィールドに対応)を基準ピクセルとした画像9ピクセル分の設定に該当します。たとえばデフォルトの設定の場合、中心にあるフィールドの数値を現在の数値より小さくすると画像のぼけ具合が小さくなります。9つのフィールドの数値をすべて足し算して0になった場合は、フィルタ処理が行われない画像が表示されます。

## 6 [出力ファイル]タブをクリックし、データの出力に関する設定を行います。



**Note** 変換するMPEGストリーム形式により設定できる項目は異なります。テキストフィールドに現存するファイル名と同名のファイル名を入力した場合は、無条件に上書きされますのでご注意ください。デフォルトのファイル名はプロジェクト名+拡張子となっています。

### ・ ビデオ

変換するファイル形式がMPEG1エレメンタリストリームもしくはMPEG2エレメンタリストリームの場合は、変換後に作成されるビデオファイル名(パス名も含む)をテキストフィールドにキー入力します。フォルダを参照する場合は、[...]をクリックします。

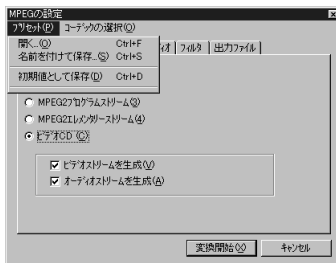
### ・ オーディオ

変換するファイル形式がMPEG1エレメンタリストリームもしくはMPEG2エレメンタリストリームの場合は、変換後に作成されるオーディオファイル名(パス名も含む)をテキストフィールドにキー入力します。フォルダを参照する場合は、[...]をクリックします。

### ・ MPEG

変換するファイル形式がMPEG1システムストリーム、MPEG2プログラムストリームもしくはVideo CDの場合は、変換後に作成されるファイル名(パス名も含む)をテキストフィールドにキー入力します。フォルダを参照する場合は、[...]をクリックします。

## 7 設定した内容を保存する場合は、[プリセット]メニューの[名前を付けて保存] (新規に保存)もしくは[初期値として保存] (デフォルトの設定として保存)を選択します。



## 8 [コーデックの選択]メニューからコーデックを選択します。

⇒ 使用できるコーデックが他にある場合、チェックをつけた方が有効になります。MVR-D2000のみの装着時は、[MVR-D2000]になります。

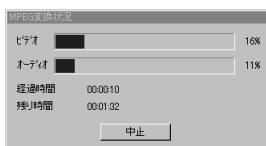


**Note** MVR-D2000のインストールに失敗している場合は、[コーデックの選択]メニューおよび[変換開始]のボタンは表示されません。

## 9 [変換開始]をクリックします。

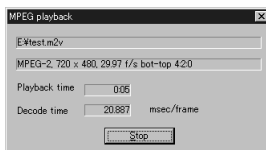
⇒ ファイルの変換を開始します。

⇒ ファイルの変換を中止する場合は、[中止]をクリックします。



## 10 変換が完了するとプレイバックを開始します。

⇒ プレイバックを中止する場合は、[STOP]をクリックします。

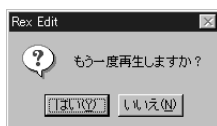


**Note** 音声は、MPEG1/MPEG2のエレメンタリーストリームでウェブ形式のオーディオファイルを作成した場合に出力されます。MPEG1システムストリーム、MPEG2プログラムストリームやVideo CDの場合、映像と音声を1つのMPEGファイルにまとめて格納します。

## 11 プレイバックが完了すると、以下のダイアログが表示されます。

⇒ プレイバックをもう一度実行する場合は、[はい]をクリックします。

⇒ プレイバックをやめる場合は、[いいえ]をクリックします。



## ■ MPEG2 ファイル出力のビットレートについて

MPEG形式にファイル変換を行う場合は、タイムライン全体をいきなり変換をするのではなく、p. 89「タイムラインの一部を変換する」を参照に動きの激しい場面、字幕が表示されている場面など部分的に変換テストを行うことをおすすめします。設定のおおよその例を以下に記載していますので、ご参照いただき、変換テストの結果も踏まえて最適な設定を行ってください。

### ● 動きの激しい映像：運動会の競争シーン

家庭用の場合、MPEG設定の[ビデオ]タブでは、ビットレートのタイプを[VBR]に、最大ビットレートを[8000000]bps、平均ビットレートを[6000000]bpsに設定します。[オーディオ]タブでは、形式を2チャンネルステレオの場合は[ウェーブ]、2チャンネルステレオ+1チャンネルの場合は[レイヤー2]に設定します。

### ● ブライダル

家庭用の場合、MPEG設定の[ビデオ]タブでは、ビットレートのタイプを[VBR]に、最大ビットレートを[6000000]bps、平均ビットレートを[4000000]bpsに設定します。[オーディオ]タブでは、形式を2チャンネルステレオおよび2チャンネルステレオ+1チャンネルのいずれの場合でも[ウェーブ]を選択します。式場側等からの配布目的の場合、MPEG設定の[ビデオ]タブでは、ビットレートのタイプを[CBR]に、ビットレートを[8000000]bpsに設定します。[オーディオ]タブでは、形式を2チャンネルステレオの場合は[ウェーブ]、2チャンネルステレオ+1チャンネルの場合は[レイヤー2]に設定します。

### ● 字幕が入っている映像

小さな字幕がビデオ素材に含まれている場合はMPEG設定の[ビデオ]タブでは、ビットレートのタイプを[CBR]に、ビットレートを[6000000]bps (8000000bps を推奨)に設定します。

### ● 空／海

もやもやとした感じの空／海(=曇天時の海／空)がビデオ素材に含まれている場合はMPEG設定の[ビデオ]タブでは、ビットレートのタイプを[CBR]に、ビットレートを[6000000]bps (8000000bps を推奨)に設定します。

### ● ゆっくりした映像 / 家庭向け映像

MPEG設定の[ビデオ]タブでは、ビットレートのタイプを[VBR]に、最大ビットレートを[6000000]bps、平均ビットレートを[4000000]bpsに設定します。

## ■タイムラインの一部を変換する

### 1 [編集]メニューから[マーク]を選択します。

⇒ マークのIN点およびOUT点を設定し、トライアルプレビューを行う範囲を設定します。



**Note** マークのIN点とOUT点の間は最低でも1秒以上あけて設定してください(30フレーム未満のクリップは変換できません)。

### 2 マーク範囲が設定されると、図の楕円で囲まれた部分の色が変わります。



### 3 [編集]メニューから[マーク範囲を保存]選択し、出力するファイル形式を選択します。



### 4 [マーク範囲をMPEGファイルに変換]を選択すると、設定画面が表示されます。タイムライン全体を変換する手順を参照に設定を行ってください。

#### ■ マーク IN/ マーク OUT のショートカットキー

キー操作だけで機能選択できるショートカットキーを活用することで、操作をスピーディに行うことができます。

- Shift + ↑                      マーク IN (マーク範囲の IN 点を設定します)
- Shift + ↓                      マーク OUT (マーク範囲の OUT 点を設定します)
- Ctrl + ↑                        マーク IN へ Jump (マーク IN へ移動します)
- Ctrl + ↓                        マーク OUT へ Jump (マーク OUT へ移動します)



## 第7章

この章では、MVR-D2000 Development Kitの使用方法について書かれているオンラインマニュアルの使用方法について説明します。

### オンラインマニュアル

・オンラインマニュアルの使い方

## 7-1. オンラインマニュアルの使い方

オンラインマニュアルは、MVR-D2000 Development Kitの使用方法について書かれています。MVR-D2000 Development Kitは、オンラインマニュアルをよくお読みの上お使いください。

### ■ オンラインマニュアルを起動する前に

オンラインマニュアルはPDF形式のファイルとなっており、これを読むためには Acrobat Readerが必要です。Acrobat Readerがインストールされていない場合は、オンラインマニュアルを起動する前に、本書 p.26「Acrobat Readerのインストール」をお読みの上、Acrobat Readerをインストールしてください。

### ■ オンラインマニュアルの起動方法

『Driver, Application & SDK CD』をCD-ROMドライブにセットし、マイコンピュータからCD-ROMドライブを開き、[Manual]フォルダを開き、その中の[Sdk\_manual]をダブルクリックします。

### ■ ハードディスクへのインストール

オンラインマニュアルは、ハードディスクへインストールして使用することもできます。以下の手順でインストールを行ってください。

1. エクスプローラなどを使用してハードディスク上にフォルダを新規作成します（フォルダを作成するドライブ、フォルダ名は任意に設定してください）。
2. 『Driver, Application & SDK CD』をCD-ROMドライブにセットし、CD-ROMドライブ内の[Manual]フォルダを開き、[Sdk\_manual]を手順1.で作成したフォルダにコピーします。

インストールしたオンラインマニュアルを起動するには、エクスプローラなどでオンラインマニュアルをインストールしたフォルダを開き、その中の[Sdk\_manual]をダブルクリックします。

### ■ Acrobat Readerの操作方法

Acrobat Readerの[ヘルプ]より「Readerオンラインガイド」を選択すると、Acrobat Readerのオンラインガイドが起動します。Acrobat Readerの操作方法是、このオンラインガイドをお読みください。

# 付録

- ・トラブルシューティング
- ・ハードウェア仕様

## A. トラブルシューティング

MVR-D2000/MPL-D2000を使用するにあたり、正しく動作しない場合があります。こうした現象が発生するにはさまざまな原因があります。テクニカルサポートに問い合わせさせていただく前に、トラブルシューティングで同じような事例が報告されていないか、確認してみてください。

### Q: 入力画像が表示されない

- 原因1    プレビュー表示が有効になっていない。
- 対策1    プレビューボタンをクリックしてプレビュー表示を有効にしてください。
- 原因2    ビデオ入力端子の設定が間違っている。
- 対策2    MPEG Stationのソース切替ボタンを使用して入力端子を切り替えてください。
- 原因3    映像機器から画像が出力されていない。
- 対策3    入力ソースとなる映像機器から画像が出力されるように映像機器の設定を変更してください。

### Q: 入力画像がオーバーレイ表示されない

- 原因1    プレビュー表示、オーバーレイ表示が有効になっていない。プレビュー表示が有効になっていない。
- 対策1    プレビューボタン、オーバーレイボタンをクリックしてプレビュー表示、オーバーレイ表示を有効にしてください。
- 原因2    オーバーレイ表示に対応していない解像度、周波数でWindowsを使用している。
- 対策2    お使いのグラフィックボードのマニュアルをお読みの上、解像度、周波数をオーバーレイ表示に対応しているものに変更してください。

**Q: 入力画像がビデオ出力されない**

- 原因1    プレビュー表示、ビデオ出力が有効になっていない。
- 対策1    プレビューボタン、ビデオ出力ボタンをクリックしてプレビュー表示、ビデオ出力を有効にしてください。
- 原因2    映像機器の入力設定が間違っている。
- 対策2    MVR-D2000のビデオ出力端子と接続した映像機器の入力端子が使用できるように映像機器の設定を変更してください。

**Q: 音声が入力されない、または音量が非常に小さい**

- 原因1    抵抗入りのオーディオケーブルを使用している。
- 対策1    抵抗なしのケーブルを使用してください。抵抗入りのケーブルを使用すると音量が非常に小さくなります。
- 原因2    MPEG Stationの音量調整が不適切。
- 対策2    MPEG Stationのモニタ音量調整フェーダーを使って音量を調整してください。
- 原因3    MPEG Stationのミュートボタンが有効になっている。
- 対策3    MPEG Stationのミュートボタンをクリックしてミュートを解除してください。

**Q: ファイル再生時に音がでない、または音量が非常に小さい**

- 原因1    抵抗入りのオーディオケーブルを使用している。
- 対策1    抵抗なしのケーブルを使用してください。抵抗入りのケーブルを使用すると音量が非常に小さくなります。
- 原因2    MPEG Stationの音量調整が不適切。
- 対策2    MPEG Stationの音量調整フェーダーを使って音量を調整してください。
- 原因3    MPEG Stationのミュートボタンが有効になっている。
- 対策3    MPEG Stationのミュートボタンをクリックしてミュートを解除してください。

- 原因4      キャプチャ時の録音レベルが低い。
- 対策4      ソース側の音量を調整するかソースを変えてみてください。  
MVR-D2000ではキャプチャ時の録音レベルを調整することはできません。
- 原因5      オーディオ機器の入力設定が間違っている（オーディオ機器と接続した場合のみ）。
- 対策5      MVR-D2000のオーディオ出力端子と接続したオーディオ機器の入力端子が使用できるようにオーディオ機器の設定を変更してください。
- 原因6      Windowsミキサーの設定が不適切（サウンドカードと接続した場合のみ）。
- 対策6      Windowsミキサーのライン入力レベルを調整するかミュートが有効になっていないか確認してください。
- 原因7      サウンドカードがセットアップもしくは動作していない。
- 対策7      WAVEファイルの再生にはサウンドカードが必要です。お使いのOS上で動作するサウンドカードがセットアップされ、正常に動作するかを確認してください。

## Q: 画質調整の結果が確認できない

- 原因      プレビュー表示が有効になっていない。
- 対策      プレビューボタンをクリックしてプレビュー表示を有効にしてから、オーバーレイボタンもしくはビデオ出力ボタンをクリックして、パソコンのディスプレイもしくは外付のテレビモニタを使用して画質の調整結果を確認してください。

## B. ハードウェア仕様

- ・ **ビデオ入出力フォーマット**  
NTSC/PAL
- ・ **ビデオ入力端子**  
7ピンDINコネクタ1系統（Sビデオケーブル、もしくは付属のピンジャック変換ケーブルを使用してコンポジットビデオケーブルを接続）
- ・ **ビデオ出力端子**  
7ピンDINコネクタ1系統（Sビデオケーブル、もしくは付属のピンジャック変換ケーブルを使用してコンポジットビデオケーブルを接続）
- ・ **オーディオ入力端子**  
RCAピンジャック（ステレオ1系統）
- ・ **オーディオ出力端子**  
ステレオミニジャック1系統
- ・ **ビデオ圧縮形式**  
ISO/IEC 11172-2 MPEG-1  
ISO/IEC 13818-2 MPEG-2
- ・ **ビデオビットレート**  
1M～15Mbps
- ・ **ビデオビットレート制御**  
CBRもしくはVBR
- ・ **GOP構成**  
IBBP (M=1/2/3, N=1～30)  
I-only (M=1, N=1)  
Closed GOP設定可能

- ・ **オーディオサンプリング周波数**

32kHz/44.1kHz/48kHz

- ・ **オーディオ量子化ビット数**

16ビット

- ・ **オーディオ圧縮形式**

ISO/IEC 11172-3 Layer 2

- ・ **オーディオビットレート**

128/160/192/224/256/320/384kbps

- ・ **多重化形式**

ISO/IEC 11172-1 MPEG-1システムストリーム

ISO/IEC 13818-1 MPEG-2プログラムストリーム

- ・ **使用資源**

割込み : パソコン本体のPCIコンフィグレーションによって割り当てられる  
IRQを1チャンネル使用

メモリ空間 : パソコン本体のPCIコンフィグレーションによって割り当てられる  
512バイトを使用

- ・ **消費電流(最大)**

+5V	1.5A (MVR-D2000)	+5V	1.1A (MPL-D2000)
+12V	160mA (MVR-D2000)	+12V	160mA (MPL-D2000)
-12V	100mA (MVR-D2000)	-12V	100mA (MPL-D2000)

- ・ **外形寸法**

175 (W) × 107 (D) mm (突起部含まず)

- ・ **重量**

200g (MVR-D2000/付属品をのぞく) 160g (MPL-D2000/付属品をのぞく)